

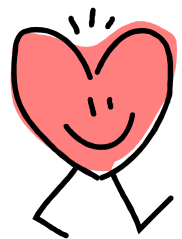
いんざい

愛

プラン

～ 住民のハートをつなぎ、共に歩む社協 ～

印西市地域福祉活動計画



平成19年5月

社会福祉法人 印西市社会福祉協議会

目 次

| | |
|----------------------|----|
| 1. 計画の概要..... | 1 |
| 2. 計画の全体像と理念..... | 3 |
| 3. 計画の進め方..... | 5 |
| 4. これまでの取り組みと課題..... | 6 |
| 5. 計画の体系..... | 13 |
| 6. これからの取り組み..... | 14 |
| 7. 支部社協の重点事業..... | 30 |
| 8. 社協の強化計画..... | 32 |

参考資料

| | |
|-------------------------|----|
| 参考1 策定委員会..... | 39 |
| 参考2 座談会の結果..... | 42 |
| 参考3 ボランティアアンケートの結果..... | 46 |

1 計画の概要

1) 地域福祉活動計画とは

地域福祉とは、住み慣れた地域の中で子どもから高齢者まで、すべての人が安心して普通の生活ができることを目的としています。地域福祉を進めるためには、大きなシステムづくりを行政が、個々の支えあいを住民が、そのネットワークづくりと調整役として社会福祉協議会などの民間福祉関係団体が、それぞれの立場で共に協力し動きあう（協働）ことが大切です。

印西市では平成19年度から「印西市地域福祉計画」がスタートします。地域福祉推進の中核民間団体である印西市社会福祉協議会（社協）として、「地域福祉計画」の具体的な行動に移しつつ、地域の小さな支えあいやふれあい活動の支援やそのシステムを、住民のみなさんと共に進めていくための計画として、「印西市地域福祉活動計画」を策定します。

また、社協事業や経営の見直しを図り、住民のみなさんの活動を今後も安定して支援できる社協となるための「強化計画」もあわせて策定することとします。

2) 関連する計画等

計画の策定や推進にあたっては、「印西市地域福祉計画」（平成19年3月策定）と連動した取り組みを進めていくものとします。

3) 計画の期間

本計画は、市の「印西市地域福祉計画」と連携した取り組みができるよう、計画期間を平成19年度から23年度の5カ年と設定します。

4) 策定過程

本計画の策定にあたっては、6つの支部社協ごとの座談会や市内で活動しているボランティアへのアンケート調査を実施し、住民のみなさんからさまざまなご意見をいただきました。あわせて社会福祉協議会内に職員によるワーキングチームを設置し、これまでの事業や今後の課題などについて検討を重ねました。

さらに、学識者や各種関係団体の代表、各支部社協の代表などからなる策定委員会を設

置き、幅広い見地から計画を検討いただきました。

素案の段階で、住民のみなさんからご意見を伺い（パブリックコメント）、その結果を踏まえ、最終的な計画書としてとりまとめました。

策定委員会

- 第1回 平成18年10月4日
- 第2回 平成18年12月13日
- 第3回 平成19年2月14日
- 第4回 平成19年5月16日（予定）

※詳細は参考資料をご覧ください

座談会

支部社協ごとに、これまで2回開催。

第1回（平成18年10月～11月）

内容：支部活動のよいところ、課題

第2回（平成19年1月～2月）

内容：課題の解決に向けて

第3回（平成19年3月～4月）

内容：支部社協の重点事業について

※詳細は参考資料をご覧ください

ボランティアアンケート

実施時期：平成18年8月～9月

調査対象：市内で活動する団体・個人

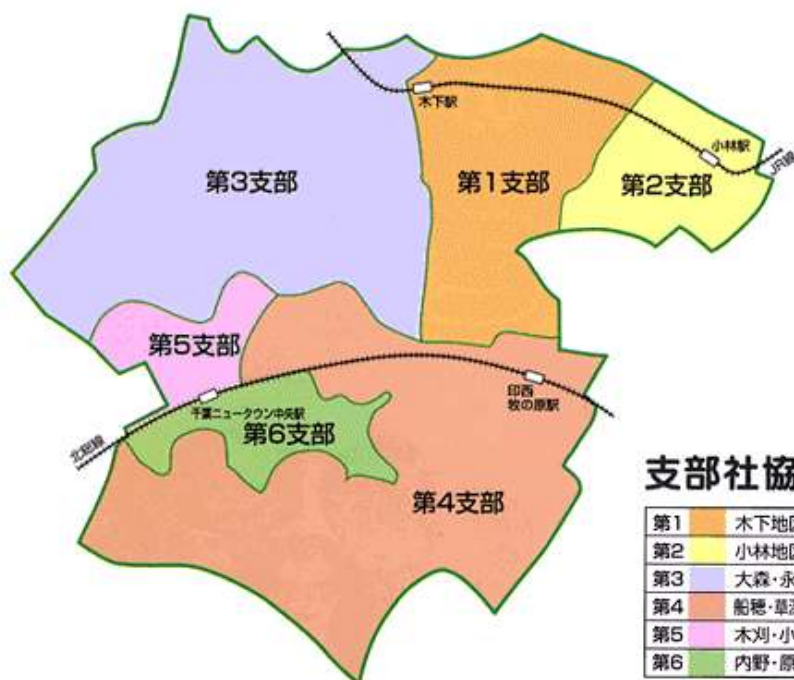
回収数：387通

質問項目：

- (1) ご本人について
- (2) ボランティア活動を続ける理由
- (3) 活動上の悩み
- (4) 活動充実のために必要なこと

など

※詳細は参考資料をご覧ください



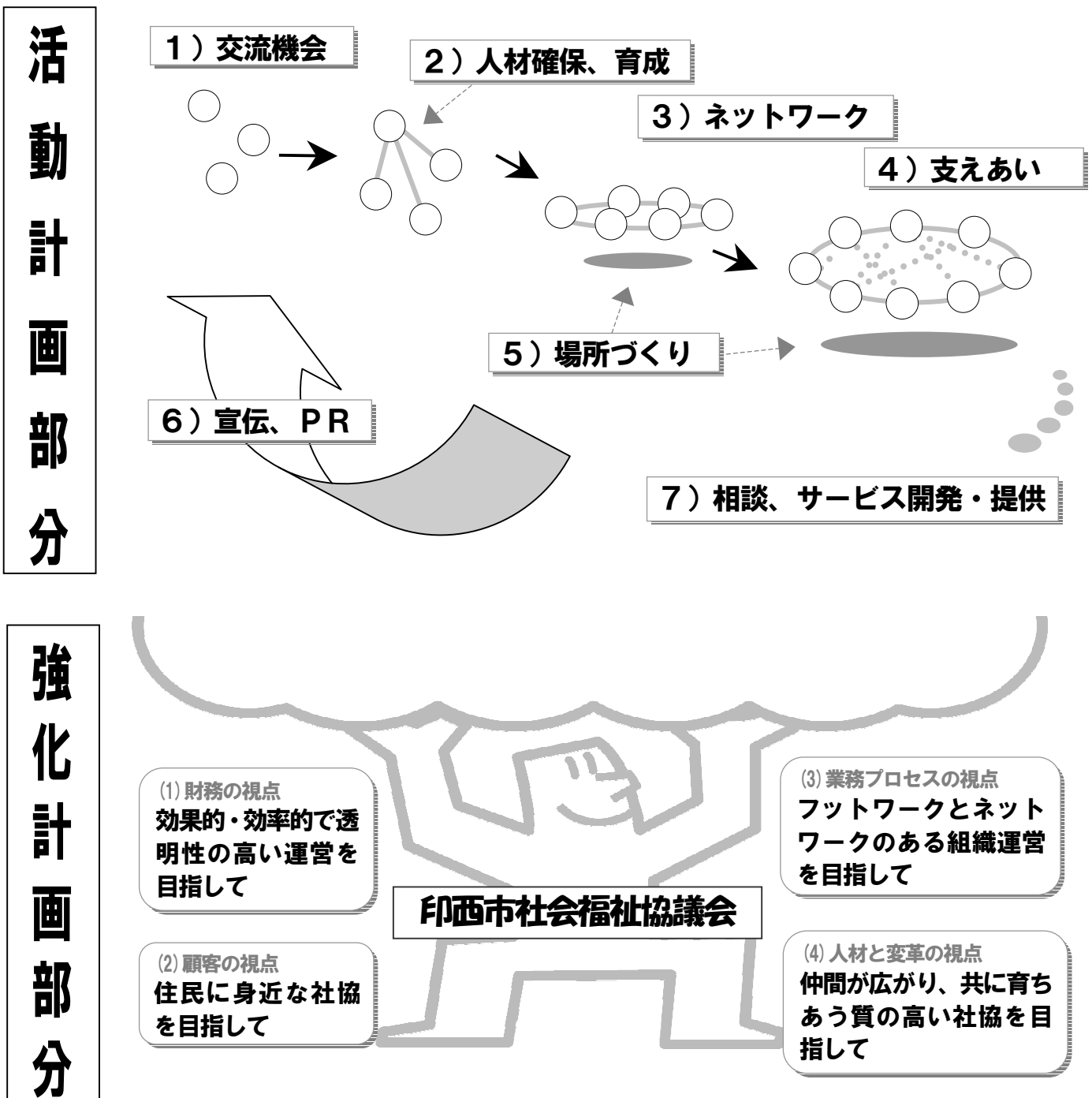
支部社協区分図

| | |
|----|----------------------|
| 第1 | 木下地区 |
| 第2 | 小林地区 |
| 第3 | 大森・永治地区 |
| 第4 | 船穂・草深・西の原・原・高花の一部の地区 |
| 第5 | 木刈・小倉台・牧の木戸・大塚地区 |
| 第6 | 内野・原山・高花地区 |

● 2. 計画の全体像と理念

1) 計画の全体像

この計画は、住民のみなさんたちと進める地域福祉活動の取り組みをまとめた『活動計画』と、住民のみなさんの活動を今後も安定して支援できる社協となるための『強化計画』の2つの部分からなります。



2)計画の理念

この計画の理念を以下のように定めます。

住民のみなさんたちと進める『活動計画』については、これまでに引き続き「誰もが安心して暮らしやすいまちづくり」を目指した取り組みを進めます。

また、住民のみなさんの活動を今後も安定して支援できる社協となるための『強化計画』については、「住民のハートをつなぎ、共に歩む社協」を目指した取り組みを進めます。

地域福祉活動計画の理念

**誰もが安心して
暮らしやすいまちづくり**

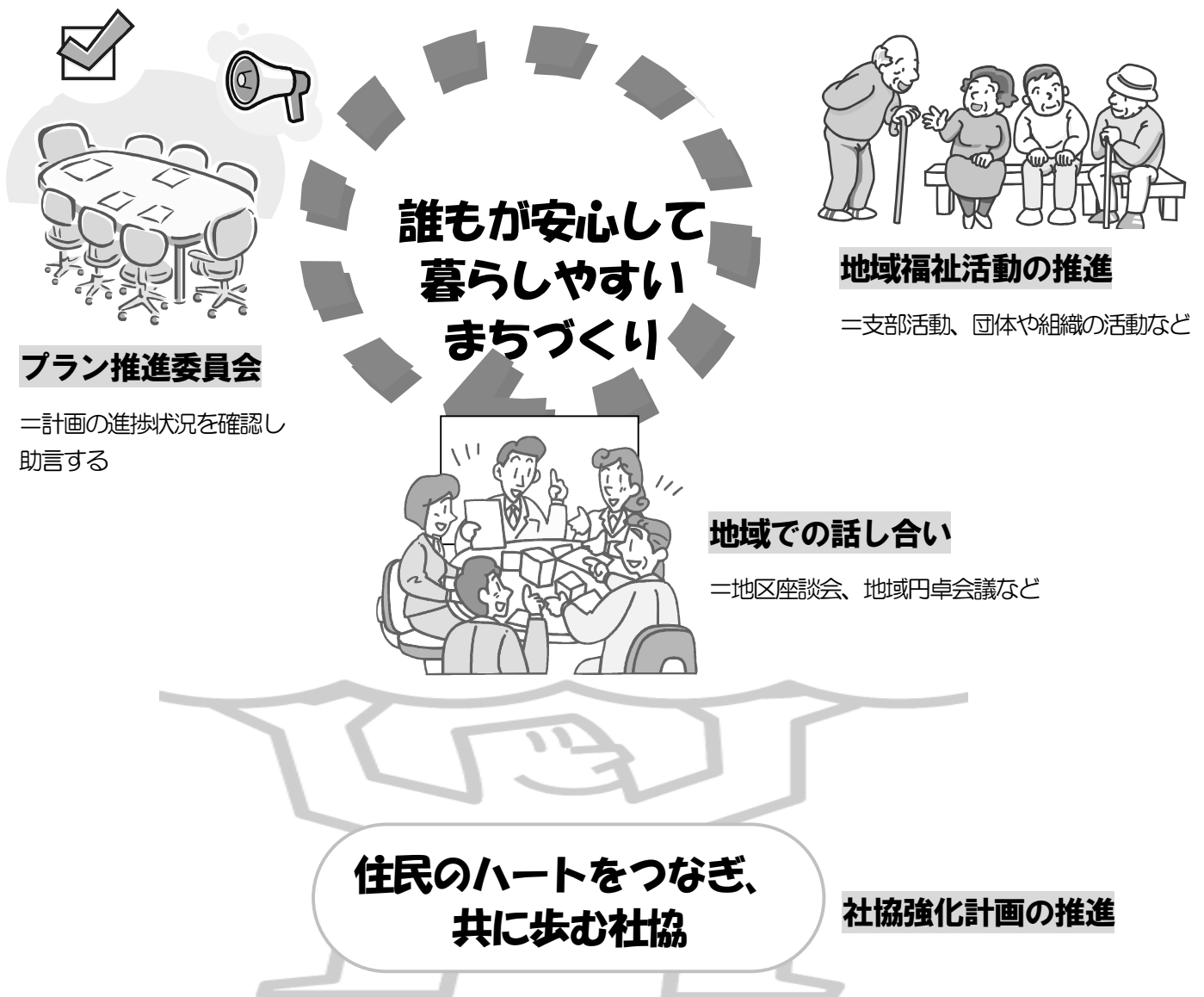
社協強化計画の理念

**住民のハートをつなぎ、
共に歩む社協**

3. 計画の進め方

この計画は、地域の小さな支えあいやふれあい活動を住民のみなさんと共に進めていくため、個人や団体、支部活動などでの向こう 5 年間の取り組みや、みなさんの活動を支えていくための社会福祉協議会自体の強化計画をとりまとめました。

今後は、それぞれの活動を推進していきながら、地区座談会や地域円卓会議、社協職員による会議などの話し合いの場でお互いの取り組みを確認するとともに、「プラン推進委員会」を設け、年に一回計画の進捗を確認し必要な助言をいただきながら、さらなる計画の推進を図ります。なお、「プラン推進委員会」は、印西市地域福祉計画との連携を図る観点から、同計画の「地域福祉推進委員会」との合同開催も視野に入れ、柔軟に対応することとします。



4. これまでの取り組みと課題

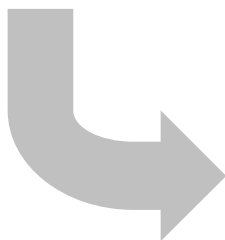
【課題1】 交流機会について

●これまでの取り組みは…

交流の機会については、主に支部社会福祉協議会（支部社協）によって、地域の高齢者を対象とした「ふれあい給食(会食・配食)サービス」や「高齢者等交流バスハイク」、「会食会や茶話会の開催」のほか、「高齢者と小中学生の世代間交流」や「ふれあいサロン」、「在宅介護者のつどい」など、幅広い世代を対象とした集いを行っています。また、ひとり暮らしの高齢者のもとに便りを送り交流を図る「ふれあいハガキの発送」や、家事を通じて家事や地域活動に参加するきっかけをつくる「熟年男性いきいき料理教室」なども行っています。

●これからの課題は…

- ・座談会からは、「ご近所づきあいの復活」（第3支部）や「行き交う人があいさつできる街」（第6支部）など、地域での人づきあいの基本を見直そうという意見が見られます。
- ・ボランティアアンケートでは「気軽なふれあい」「異世代間の交流」「団体・組織間の交流」など、人と人との出会い、交流の場づくりを求める声が多く寄せられています。
- ・「子育て支援が少ない」「異世代交流がほしい」（第1支部）、「多世代に向けた事業を」（第4支部）などが挙げられています。
- ・多世代交流については、同年代の横のつながりがまだできていない保育園や幼稚園などにあがる前の子どもとその親、同年代の友人・知人が少なくなった高齢者など、幅広い人たちを対象とした交流を考えていく必要があります。



あいさつや近所づきあいなどの何気ない日常の交流や、子どもから高齢者までの幅広い世代間の交流などの交流機会をふやしていく必要があります。

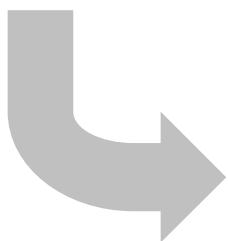
【課題2】 人材確保・育成について

●これまでの取り組みは…

人材確保・育成については、ボランティア活動に対する住民の関心と理解を深め、ボランティアの育成や支援を図るため、ボランティアセンターにおいて「ボランティア活動全般に関する相談の受付」や「ボランティアの登録や紹介」、「ボランティア体験コーナー」などを行っています。このほか、中高校生対象のボランティア入門講座・ウォームハートスクールや、聴覚障がい支援ボランティア養成講座、傾聴ボランティアフォローアップ講座など「各種ボランティア養成講座の開催」を行うとともに、「ボランティアグループの活動支援」による活動推進のための助成なども行っています。

●これからの課題は…

- ・ボランティアアンケートによれば、現在のボランティア像は「50代以上の女性中心」であり、幅広い年代・性別の担い手確保が課題となっています。
- ・2007年にはいわゆる団塊の世代が一斉に退職期を迎えるため、地域で何か活動したい中高年男性の増加が予想されます。
- ・ボランティア活動では、「リーダーの確保、育成」なども必要とされています。
- ・「子ども世代と子育て世代へのアピール」、「若い世代が参加できる企画がほしい」などの指摘もみられます。
- ・平日の通常開所時間に来られない方へのボランティア相談や、ボランティア団体同士の連携づくりなどが必要となっています。
- ・地域福祉権利擁護事業（高齢や障がいのために福祉サービスの利用や日常の金銭管理に不安な人を手助けする事業）や外出支援サービス、ゆうゆうサービス（日常生活の家事や片付けなどをお手伝いする会員制の有償ボランティア）など、社協のさまざまな福祉サービスを担う人員の確保も求められています。



何か手伝いたいという人たちが気軽に参加できるようなボランティアのしくみや必要な情報発信、専門的な人材の確保など、ともに活動を支える仲間を増やしていく必要があります。

【課題3】 ネットワークについて

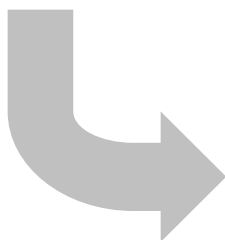
●これまでの取り組みは…

ネットワークについては、市内6地区ごとの支部社協活動の横の連携を図るため、支部連絡会を年3回開催しています。

また、ボランティア同士の交流や連携を図るため、ボランティア研修会・交流会なども開催しています。

●これからの課題は…

- ・ボランティアアンケートからは「団体・組織間のつながり・連携」を求める声が多く寄せられています。
- ・「支部社協と町内会との連携を」（第2支部、第6支部）、「町内会長と支部社協役員や民生委員のネットワークづくり」（第3支部）、「福祉関係団体との連携を」（第4支部）、「地域の商店や企業への働きかけができれば」（第6支部）など、団体間のネットワークを求める声も多く寄せられています。
- ・地域の諸団体に支部社協への参加を呼びかけていますが、認知度は高いとはいえず、今後もさらにPR等が必要になっています。



全市的に、また支部社協ごとに、町内会・自治会、福祉に携わるNPOやボランティア、市内の企業や商店など、さまざまな団体や組織とのネットワークをつくっていく必要があります。

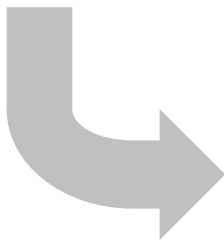
【課題4】 支えあいについて

●これまでの取り組みは…

支えあいについては、住民の悩みごとに専門的な観点から適切な助言を行い、問題解決に至るまで継続的に援助する「心配ごと相談」を実施しているほか、生活に困っている世帯に食料品などを給付する「一時的な生活支援事業」、被災した世帯への「災害見舞金の配布」、自宅などへ帰るための交通費が払えない人への「行旅人旅費の支給」などを行っています。

●これからの課題は…

- ・ボランティアアンケートからは「地域で困っている人を支えるしくみ」を求める声が多く寄せられています。
- ・座談会では、「孤独死の防止」（第1支部）や「要支援者のネットワークづくり」（第6支部）という意見もみられます。
- ・心配ごと相談については利用件数も増加するなど、今後さらなる相談体制の充実が求められています。
- ・地域での支えあいや見守りでは、個人情報保護の問題についても配慮が必要となっています。
- ・今後は、大規模災害時のボランティアへの対応なども求められます。
- ・地域皆での支えあい、いざというとき（大規模な災害時など）に備えた日頃からの支えあいづくりが求められています。



地域で困っている人にできるだけ早く気づき助け住民みんなで支えるしくみや、いざというとき（大規模な災害時など）に備えた日頃からの支えあいのしくみをつくっていく必要があります。

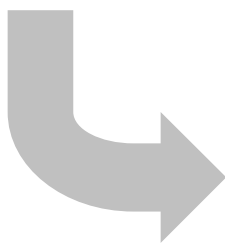
【課題5】 場所づくりについて

●これまでの取り組みは…

活動の場所づくりについては、ボランティア活動の情報や人材の拠点としてボランティアセンターを運営しているほか、市内を6地区に分け、それぞれに支部社協を設置し、住民により身近な地域福祉活動を展開しています。

●これからの課題は…

- ・座談会からは「拠点がほしい」という意見がどの支部からも出ています。
- ・求められる機能としては、「資材や用具の保管場所」（第6支部）というようなハード面としての要望のほか、「みんなが集まれる場」（第1支部）というソフト面からの要望もあります。さらに「地域に気軽に相談できる窓口がほしい」（第1支部）という要望も見られます。
- ・ボランティアアンケートでは「各地域に1つずつ事務所として使える場所を」という意見もみられます。
- ・支部社協活動のような地域住民の主体的福祉活動をより推進してゆくためにも、地域ごとに活動拠点と成るべき場所の確保を、今後検討していく必要があります。



住民により身近な地域福祉活動ができる場所や困りごとが気軽に話し合える場所、こうした活動を支える支部活動の事務局の場所など、住民の身近なところに活動の拠点をつくっていく必要があります。

【課題6】 宣伝・PRについて

●これまでの取り組みは…

宣伝、PRについては、ボランティアや支部社協の活動、社協の活動や役割などを周知するための広報「ふくし印西」を年4回発行しているほか、ホームページによる情報の随時発信を行っています。また、社会福祉事業の啓発を図ることを目的とした「印西市社会福祉大会」を隔年で開催しているほか、社協の事業について住民の理解を深めるために各種イベントに参加しています。

●これからの課題は…

- ・ボランティアアンケートからは「社協自体の認知度が低い、PRが必要」との意見が寄せられています。
- ・宣伝することで賛助金や寄付、一般会員の増加も見込めるのではないかという意見もあります。
- ・座談会でも「社協のPR（よい事例を公表する）」（第2支部、第3支部）、「社協広報誌に支部社協の記事をもっと多く掲載して」（第5支部）などの意見が寄せられています。
- ・今後は、広報紙やホームページの内容の充実など、社協の情報公開という面も含め、広報啓発に力を入れていく必要があります。
- ・社協の活動は共同募金などの相互扶助によって支えられていることなどを住民にわかりやすく伝えていく必要があります。



社協の活動についてわかりやすく継続的な広報に努めるとともに、活動へ気軽に参加してもらう体験や事業財源や協賛等の宣伝など、活動を広くみなさんに伝えていく工夫をしていく必要があります。

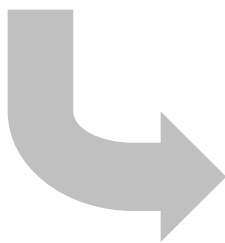
【課題7】 相談、サービス開発・提供について

●これまでの取り組みは…

相談、サービス開発・提供については、心配ごと相談や結婚相談、地域福祉権利擁護事業初期相談などの相談事業を行っているほか、高齢者や障がい者、子どもたちといった対象者ごとの支援を行っています。また、介護保険の指定事業者としてケアプラン作成や訪問介護事業を行っており、市からの受託で市立の福祉作業所の運営も行っています。

●これからの課題は…

- ・座談会では、「ひとり暮らしの高齢者の閉じこもり防止策」（第2支部）や「お誘いの方法」（第6支部）についての意見がみられます。
- ・第6支部では他にも「要支援の方の情報が入りにくい」、「本当に困っている人の役に立ちたい」という意見もみられます。
- ・ボランティアアンケートでは、「必要なことに応えるボランティアを。例えば自分でゴミを出せない人のためのゴミ出しボランティアなど」という意見もみられます。
- ・要介護状態の人に対するホームヘルプサービスについては祝日も対応できるようにするなど、利用者の必要性に応じたサービス提供を今後も工夫していく必要があります。



個別の相談や住民参加による福祉サービスの充実、権利擁護の推進など、行政や民間事業者よりも社協が得意なこと、社協だからできることなど、一人ひとりに寄り添う支援をすすめていく必要があります。

5. 計画の体系

地域福祉活動計画【活動計画編】では、以下の体系に沿った取り組みを展開していきます。



6. これからの取り組み

① 交流する機会をふやそう

⇒近所づきあい、多世代交流など

1) あいさつからはじまるご近所づきあい、地域交流の支援

支部社協を中心とした地域ごとに、日ごろのあいさつを基本とした住民同士の交流の輪を広げていきます。現在、中学校区ごとに展開されている『さわやかコミュニティ推進事業』との連携や、支部社協を中心として地区の関係団体や住民が気軽に集まり話し合う座談会を開催するとともに、「あいさつの日」「あいさつ週間」を設けるなどのキャンペーン展開を検討していきます。

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|--------------------|------|-----------------------------------|-------|------|------|
| さわやかコミュニティ推進事業との連携 | 普及推進 | —————▶ | | | |
| 地区座談会の開催 | 実施 | —————▶ | | | |
| あいさつキャンペーンの展開 | 検討 | キャン ペ ー ン の 実 施 | ————▶ | 見直し | |

2) シニア世代の交流支援

シニア世代の交流支援として、支部社協を中心としたふれあい給食などの交流活動や、社協で実施している熟年男性向けの料理教室などを充実します。また、ひとり暮らしの高齢者に季節ごとの便りを送るふれあいハガキを通じた交流のきっかけづくりを進めます。



【熟年男性いきいき料理教室】

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|---|----------------------------|--------|------|------|------|
| 支部社協を中心とした交流活動の充実 (ふれあい給食〈会食〉、交流事業など) | 支部社協 ごとの 活動充実 | —————▶ | | | |
| シニア世代向け交流事業の充実 (熟年男性の料理教室、シニア向けボランティア講座など) | シニア向 け交流事 業の充実 | —————▶ | | | |
| 閉じこもり高齢者対策 (ふれあいハガキなどの交流のきっかけづくり) | ふれあい ハガキに よる交流 充実 | —————▶ | | | |

3)子育て世代の交流支援

子育て世代の交流支援として、住民のみなさんに身近な支部社協を中心とした地域ごとの交流の場づくりや、子育ての悩みや役立つ情報を相互に交換できる場づくりを進めます。また、子育て支援に取り組むNPO法人等との連携を強化し、子育て支援企画の共同開催などを検討して取り組みます。

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|------------------------------------|------|--------|--------|------|------|
| 支部社協を中心とした交流活動の充実 (子育てサロンなど) | 検討 | 実施 | —————▶ | | |
| 社協を中心とした交流活動の充実 (子育て・孫育て応援講座など) | 実施 | —————▶ | | | |
| NPO法人との連携 (子育て支援企画の共同開催など) | 検討 | 実施 | —————▶ | 見直し | |

4)障がい者(児)の交流支援

障がいのあるなしに関わらず、子どもたち同士が遊びを通じて自然に交流する場を提供する『おもちゃの図書館』を運営するボランティア団体に対して、活動費の助成を行い、

障がい者の交流を支援します。

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|------------------------------------|--------------|--------|------|--------|------|
| おもちゃの図書館運営支援 (活動費助成、ボランティア養成など) | 助成やボランティアの養成 | —————▶ | | | |
| 障がい者(児)の交流支援 (支部・学校・行政・施設との連携) | | 検討 | 実施 | —————▶ | |

5) 多世代交流支援

地域には生まれたばかりの子どもから、長寿の高齢者までさまざまな世代の人たちが暮らしています。支部社協を中心として、幅広い世代がお互いに交流できる機会を積極的につくっていきます。また、福祉教育の一環として、学校の授業で障がい者や高齢者と交流し理解を深める機会を検討し取り組んでいきます。

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|------------------------------------|-------------|--------|--------|------|------|
| 支部社協を中心とした交流活動の充実 (世代間交流など) | 支部社協ごとの活動充実 | —————▶ | | | |
| 子どもや障がい者、高齢者の交流機会の充実 (福祉教育との連携) | 検討 | 実施 | —————▶ | | |

②共に活動する仲間をふやそう

⇒人材確保、育成、さまざまな世代の参加など

1) ボランティア・市民活動団体に関する情報発信

社協で発行している『ふくし印西』や支部ごとの広報、社協ホームページをさらに充実し、イベントやボランティアの呼びかけなどに積極的に取り組みます。また、市内のコンビニエンスストアや商店などの協力のもとに掲示場所を確保し、日常的にボランティア活動等の情報を目にしてもらえるような取り組みを進めます。

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|---------------------------|------------------|------|------|------|------|
| 広報紙の充実 (ふくし印西、各支部広報など) | ふくし印西の編集・配布方法の検討 | 実施 | → | → | → |
| 社協ホームページの活用 | 情報発信の充実 | → | → | → | → |
| 掲示板設置場所の開拓 (コンビニ、商店など) | 設置場所の開拓 | 広報配置 | → | → | → |

2) 福祉に関わる人材の育成

気軽にできる『ちょこっとボランティア』をはじめ、体験型や定年を迎えて地域デビューするシニア世代ボランティアなど、さまざまなボランティアを養成するとともに、リーダーとなる人材の育成も進めます。また、学校教育と連携した福祉教育などを通じて次世代を担う人材を育成するとともに、福祉教育活動に熱心な学校への支援を行います。



【福祉教育：ウォームハートスクール】

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|---|---------------|------|------|------|------|
| ボランティアの養成 (ちょこっとボランティア、体験ボランティア、シニア世代向け講座など) | 参加機会の充実、講座の充実 | → | → | → | → |

| | | | |
|--------------------------------|-------------|--------|--------|
| ボランティアリーダーの育成 | 検討 | 実施 | —————▶ |
| 次世代を担うボランティアの育成 (福祉教育の充実など) | 充実 | —————▶ | |
| 福祉教育活動実践校への支援 | 活動支援、 助成 | —————▶ | |

3) ボランティアコーディネイト機能の充実

ボランティアセンターにおける情報の収集や発信などを進めるとともに、ボランティアの要請を受け適したボランティアを派遣するコーディネーターの養成を検討し、必要とされるところに必要なボランティアが迅速に対応できるよう、質の向上に取り組んでいきます。

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|---------------------------------|-------------------------------|--------|------|--------|------|
| ボランティアセンターの機能の充実 (情報収集・発信など) | ボラン ティア情報 の収集、発 信の充実 | —————▶ | | | |
| コーディネータの養成、質の向上 | 検討 | —————▶ | 実施 | —————▶ | |

4) 各団体の活動支援

市内で福祉活動を展開するボランティアや市民活動団体に対して、民間事業が行う活動費助成などの情報を積極的に提供し活動を支援します。

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|---------------------------------|-----------------------|--------|------|------|------|
| 各種助成情報の提供 (民間企業の活動費助成 など) | ホームペー ジ等での 情報提供 | —————▶ | | | |

③ 団体や機関とのネットワークをつくろう

⇒地域の諸団体同士の連携提案など

1) 支部社協と関係団体のネットワーク

地域ごとのネットワークとして、支部社協と地域内の民生委員協議会や福祉施設などとの連携を強化していくとともに、支部連絡会や役員同士の交流などを通じた支部社協間の連携も充実していきます。また、市の地域福祉計画に位置づけられた「地域円卓会議」（次ページ参照）について、支部社協が中心となって活動できるしくみを検討し取り組んでいきます。

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|---------------------------------|-------------|------|--------|------|------|
| 福祉関係団体との連携 （民生委員協議会、福祉施設など） | 検討 | 実施 | —————▶ | | |
| 支部社協間の連携強化 （支部連絡会、役員同士の交流など） | 連絡会や役員交流の充実 | | —————▶ | | |
| 地域円卓会議の推進 （支部社協ごとの話し合いの場づくり） | 検討 | 実施 | —————▶ | | |

2) 社協と関係団体のネットワーク

市全体のネットワークとして、障がい者団体や子育てサークルなどの当事者団体との連携を強化していくとともに、市民活動の情報交換や交流の場である『だんごフォーラム』とボランティアセンターで定期的な情報交換の場を持つなど、市民活動支援センターとの連携を検討し取り組んでいきます。

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|---------------------------------|---------|------|--------|------|------|
| 当事者団体との連携 （障がい者団体、子育てサークルなど） | 連絡体制の充実 | | —————▶ | | |

| | | | |
|--------------------------------|-------------------|----|---|
| 市民活動支援センターとの連携 (だんごフォーラムなど) | 検討 | 実施 | → |
| 市の関連部署との連携 (保健、福祉、防災、防犯など) | 市地域福祉計画の 推進、連携 | | → |

3) 市内企業や商店とのネットワーク

市内で活動する企業や商店に対して、福祉活動などの社会貢献についての啓発活動を充実するとともに、社会福祉協議会会員への勧誘や赤い羽根共同募金等の募金活動への協力を積極的に行っています。また、こうした福祉活動に協力的な企業・商店については、社協が発行する広報やホームページ等で周知し、さらに広告枠などでの協力を仰ぐなど、双方の利益となるような広報、宣伝に取り組みます。

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|---------------------------------------|----------|------|------|------|------|
| 企業・商店の社会貢献の啓発 (従業員のボランティア活動への理解など) | 啓発活動の充実 | | | | → |
| 会費、募金活動等の協力体制づくり | 協力への呼びかけ | | | | → |
| 福祉協力企業・商店についての広報、宣伝 | 広報・宣伝の充実 | | | | → |

「地域円卓会議」とは

印西市地域福祉計画では、計画期間中に特に力を入れて取り組む3つの推進プロジェクトのひとつとして、「地域円卓会議推進プロジェクト」を位置づけています。

このプロジェクトは、地域のさまざまな問題について、地域の関係者（例：社会福祉協議会、自治会・町内会、防犯組合、民生委員児童委員協議会、ボランティア団体などの代表）が一堂に会して話し合い、地域の問題の解決や困りごとへの有効な手立てをともに考えるしくみをつくろうというものです。

当面は、支部社協を中心とする市内6箇所で、社会福祉協議会、自治会や町内会、防犯組合、民生委員児童委員協議会、学校PTA、ボランティア団体などの代表が定期的に顔を合わせ話し合いを持つ場を設定することとしています。

(印西市地域福祉計画より)

④ 支えあいのしくみをつくろう

⇒見守り、防犯、防災、大規模災害時対策など

1) SOSを発信・受信しやすいしくみづくり

小さな悩みやちょっとした困りごとのうちに、周りの誰かに伝え、問題を解決できるように、日常生活で問題になりやすいテーマについての正しい知識の普及を進めます。また、問題を発見した場合は速やかに必要な対応ができるように、関係機関への連絡や通報のしくみを検討し普及に取り組みます。さらに、「地域円卓会議」を通じた地域の支えあいのしくみについても検討し取り組んでいきます。

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|--|---------|--------|--------|------|------|
| 虐待、孤独死、認知症、詐欺などについての正しい知識の普及 (学習会、講座など) | 学習会等の実施 | —————▶ | | | |
| 関係機関への連絡、通報の普及 | 検討 | 実施 | —————▶ | | |
| 地域円卓会議をきっかけとした連携 | 検討 | 実施 | —————▶ | | |

2) 大規模災害時の地域支えあいのしくみづくり

現在、町内会・自治会単位で設置が進められている自主防災組織に対して、社協や支部社協の持つノウハウを生かした要援護者対策について連携して検討を進め取り組んでいきます。その際、実際に災害を経験した他市の社会福祉協議会の事例などを活用し、具体的に有効な方法など紹介していきます。

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|-------------------------------------|------|--------|--------|------|------|
| 自主防災組織との連携 (要援護者情報や支援方法などの提供、検討) | 検討 | 実施 | —————▶ | | |
| 先行事例、有効事例の紹介 (学習会、広報など) | 実施 | —————▶ | | | |

3) 災害救援ボランティアの体制づくり

災害時に迅速に対応できる災害救援ボランティアの養成を検討し取り組んでいくとともに、町内会・自治会などに災害救援ボランティアを紹介するなど情報発信を進めます。また、大規模な災害が起こった場合は市内外からボランティアが集まってくることが想定されるため、大規模災害時のボランティア受け入れについての検討を進め取り組んでいきます。

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|------------------------|------|------|--------|------|------|
| 災害救援ボランティアの養成 | 検討 | 実施 | —————▶ | | |
| 災害救援ボランティアについての情報発信 | | 実施 | —————▶ | | |
| 大規模災害時のボランティア受け入れ体制づくり | 検討 | 実施 | —————▶ | | |



【装具をつけて高齢者擬似体験】

⑤活動の拠点をつくろう

⇒支部社協ごとの拠点づくりなど

1) 地域福祉の活動場所づくり

地域福祉活動を行う場所として、市の総合福祉センターや各地区のコミュニティセンターなどの活用を勧めるとともに、地域で管理している公民館等を福祉活動に優先的に活用させてもらえるよう要請していきます。さらに、商店などの空き店舗や旧公団の空き住宅などの活用について関係機関と検討し取り組んでいきます。

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|---------------------|------|--------|--------|------|------|
| 総合福祉センター等の活用 | 実施 | —————▶ | | | |
| コミュニティセンター等の活用 | 実施 | —————▶ | | | |
| 公民館等の優先的活用の要請 | 実施 | —————▶ | | | |
| 空き店舗、空き住宅の上手な活用法の検討 | 検討 | 実施 | —————▶ | | |

2) 困りごとを気軽に話し合える場所づくり

困りごとを気軽に話し合える場所として、支部社協ごとで開催している「座談会」を引き続き開催していくとともに、地域の問題を関係団体が持ち寄り話し合う「地域円卓会議」の推進を検討し取り組んでいきます。また、現在は社会福祉協議会で実施している相談事業について、住民により身近な各支部単位程度での相談窓口（機能）などを検討し取り組んでいきます。

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|------------|------|--------|--------|--------|------|
| 地区座談会の開催 | 実施 | —————▶ | | | |
| 地域円卓会議の推進 | 検討 | 実施 | —————▶ | | |
| 身近な相談窓口の設置 | 検討 | —————▶ | 実施 | —————▶ | |

3) 支部社協事務局の場所づくり

今後、さらに支部ごとの社会福祉協議会活動を充実していくために、支部社協事務局のあり方や運営方法の検討を進めます。その上で、市など関係機関と協議を進め、公共施設等を活用した場所の確保などを検討し取り組んでいきます。

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|----------------|------|------|------|------|------|
| 必要な機能、設備、規模の検討 | 検討 | | | | |
| 事務局運営方法の検討 | 検討 | → | | | |
| 既存施設を活用した場所の確保 | | 検討 | 実施 | → | |



【すすかけの茶屋（第2支部）】

⑥活動を広くみんなに知ってもらおう

⇒社協自身や活動内容の宣伝・PR など

1) 広報の充実

社会福祉協議会の活動を広く知っていただくための広報紙やホームページによる広報を充実するとともに、目の不自由な人たちのための声の広報の作成にも引き続き取り組みます。また、住民の声や視点を生かしたわかりやすい広報づくりやコンビニエンスストア等への広報掲示場所の確保などを検討し取り組んでいきます。

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|------------------------|----------------|-------|-------|-------|--------|
| 広報「ふくし印西」の発行 | 編集・配布 方法の検討 | 実施 | ————— | ————— | —————▶ |
| ホームページの充実 | 情報発信 の充実 | ————— | ————— | ————— | —————▶ |
| 住民参加による広報紙づくり | | 検討 | 実施 | ————— | —————▶ |
| 広報設置場所、掲示場所の 拡大（再掲） | 検討 | 設置 | ————— | ————— | —————▶ |

2) 社協活動への理解を深める工夫

社会福祉協議会の活動を知っていただくために、「印西市社会福祉大会」（1年おきに開催）について検討し充実していくとともに、支部社協ごとの座談会を実施するなど、イベントや行事による周知を進めます。また、車いすの体験や募金ボランティア体験など、気軽に参加できる社協事業を充実するとともに、配食サービスなどがどの募金や寄付でまかなわれているかを知らせ、事業を見えやすくする取り組みを進めます。



【共同募金活動】

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|--|---------|--------|--------|------|------|
| 印西市社会福祉大会の充実 (開催方法の検討など) | 検討 | 実施 | —————▶ | | |
| 地区座談会の開催 (再掲) | 実施 | —————▶ | | | |
| 気軽に参加できる「体験型」事業の充実 (募金活動体験、車いす体験など) | 参加機会の充実 | —————▶ | | | |
| 事業ごとの財源や協賛の明示 | 実施 | —————▶ | | | |



【いれあい給食（第2支部）】

⑦一人ひとりに寄り添う支援をすすめよう

⇒個別相談や新たなサービス提供など

1) 相談事業の充実

相談事業については、住民の悩みごとに適切な助言を行い、問題解決に至るまで継続的に援助する『心配ごと相談』や、判断能力に不安のある高齢者等へ福祉サービス利用や財産管理を手助けする『地域福祉権利擁護事業初期相談』を引き続き充実していきます。なお、『結婚相談』については利用が減っており、内容や必要性を含めた見直しを行うこととします。

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|----------------|------|--------|------|------|------|
| 心配ごと相談 | 充実 | —————▶ | | | |
| 地域福祉権利擁護事業初期相談 | 充実 | —————▶ | | | |
| 結婚相談 | 見直し | | | | |

2) 住民参加による福祉サービスの充実

座談会やアンケートなどを通じてどのような手助けが求められているかの把握に努めるとともに、住民同士の「支えあい」による住民参加型在宅福祉サービス『ゆうゆうサービス』を充実していきます。また、例えば集合住宅の上層階に住み朝のゴミ出しに苦労している高齢者世帯への手助けなど、ちょっとした手助けにも応える新たなボランティアについて検討し取り組んでいきます。

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|--|-----------|--------|------|---------------------|----------|
| 住民ニーズの把握 (座談会での意見収集、サービス利用者アンケートなど) | 座談会での意見収集 | —————▶ | | 計画見直しに向け アンケート実施 | 計画策定への反映 |
| ゆうゆうサービスの充実 | 協力会員の増強 | —————▶ | | | |

| | | | |
|--------------------|----|----|--------|
| ちよこっとボランティア の開発 | 検討 | 実施 | —————→ |
|--------------------|----|----|--------|

3) 権利擁護の推進

高齢や障がいのために、福祉サービスを利用したり日常の金銭管理に不安な方が、在宅で安心して生活できるような手助けを行う『地域福祉権利擁護事業』（県社協主体）の利用についての普及・啓発に努めます。また、手伝いを行う生活支援員について、今後の利用増加に応じた確保を進めていく必要があり、適切な人材の発掘に取り組みます。

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|----------------------|--------------|--------|------|------|------|
| 地域福祉権利擁護事業の 普及・啓発 | 広報の 充実 | —————→ | | | |
| 生活支援員の発掘 | 人材の確 保・充実 | —————→ | | | |

4) 一人ひとりに寄り添う支援の充実

高齢者や障がい者が住みなれた地域で安心して生活できるよう、必要な方への車いすの貸し出しや車いす対応車両の貸出を実施するとともに、介護保険事業の指定事業者として、ケアプランの作成や訪問介護を充実していきます。

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|-------------------------------|------|--------|------|------|------|
| 車いすの貸し出し | 実施 | —————→ | | | |
| 車いす対応車両の貸出 | 実施 | —————→ | | | |
| 介護保険事業 (ケアプランの作成、訪問 介護) | 充実 | —————→ | | | |

5) 委託事業の充実

出産直後の世帯へ育児や家事の支援を行う『ママヘルプサービス』や、高齢者・障がい

者への『外出支援サービス』、『ホームヘルパーの派遣』、障がい者一人ひとりの能力に応じた作業指導や生活支援、就労支援を行う『福祉作業所の運営』などの各受託事業に引き続き取り組んでいくとともに、社会福祉協議会が得意とする地域のネットワーク力を生かし、さらなる充実を図ります。

| | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|---|------|--------|------|------|------|
| ママヘルプサービス (市受託事業) | 充実 | —————▶ | | | |
| 外出支援サービス (市受託事業) | 充実 | —————▶ | | | |
| 高齢者向けホームヘルパーの派遣 (介護保険外、市受託事業) | 充実 | —————▶ | | | |
| 障がい者向けホームヘルパーの派遣 (障害福祉サービス、地域生活支援事業) | 充実 | —————▶ | | | |
| 声の広報の作成支援 (ボランティアの養成、広報づくりなど、市受託事業) | 充実 | —————▶ | | | |
| 福祉作業所の運営 (利用者の自立に向けた作業メニューの充実、市受託事業) | 充実 | —————▶ | | | |



【みどり荘での喫茶の日】

7. 支部社協の重点事業

印西市社会福祉協議会は、今後も6つの支部社協ごとに行われる、地域に密着した独自の地域福祉活動を支援していきます。各支部の話し合いで決まった各支部の目標と計画期間中に重点的に取り組む事業は以下の通りです。

| | 目 標 | 重点事業 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|------------------|----------------------|--|------------|------|------|------|------|
| 第 1 支 部 | 更なるネットワー クを広げよう | ・出前子育てサロンの 実施(茶友会 ^(*) のこ ども版) | 検討 | 実施 | → | → | → |
| | | ・多世代交流事業の実 施(保育園などを巻 き込んで) | | 検討 | 実施 | → | → |
| | | ・お父さんサロンの実 施(男性の地域参加 を促そう) | 検討 実施 | → | → | → | → |
| 第 2 支 部 | 現在の事業の発展 をめざそう | ・すすかけの茶屋 ^(**) における子育て世 代と高齢者の交流 を深める(子育て支 援事業の継続充実) | 継続 充実 | → | → | → | → |
| | | ・さくらの会(ふれあい 会食)の対象者の見 直しと拡大 | 見直し 拡大 | → | → | → | → |
| | | ・支部のネットワー クを活用した新規事 業の開拓、事業展開 | 開拓 事業展開 | → | → | → | → |
| 第 3 支 部 | 第3支部らしい事 業展開をはかろう | ・こどもとおとしより のふれあい会(新規 事業) | 開催 | → | → | → | → |
| | | ・ボランティア募集を 広報紙に掲載する | 実施 | → | → | → | → |
| | | ・部会以外にも定期的 な話し合いの場を 作る | 実施 | → | → | → | → |
| | | ・地区交流事業の継 続・充実(広報活動と ネットワークつく り) | 継続 充実 | → | → | → | → |

※茶友会^(*)、すすかけの茶屋^(**)の説明は次ページを参照

| | 目 標 | 重点事業 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|------------------|--|---|------|------|------|------|------|
| 第 4 支 部 | つなげるつながる 中で人材確保をめ ざそう | ・支部ボランティア研 修の参加枠を一般 市民に拡大する | 実施 | → | → | → | → |
| | | ・小中学校や関連団体 との共催事業を企 画実行 | 検討 | 実施 | → | → | → |
| | | ・ふれあい文化祭りへ の積極的参加 | 実施 | → | → | → | → |
| | | ・地域再発見事業(オリ エンテーリングな ど) | 検討 | 実施 | → | → | → |
| | | ・男性の参加しやすい 企画(飲みニケーシ ョンなど) | | 検討 | 実施 | → | → |
| 第 5 支 部 | 活動する仲間を増 やそう (いろいろな人を 対象とした事業・ 講座を展開しよ う) | ・介護講座(在宅介護や 認知症サポーター 養成) | 実施 | → | → | → | → |
| | | ・団塊の世代を対象と した事業 (料理教室・男性のお しゃれ講座など) | 実施 | → | → | → | → |
| | | ・小中学生に向けた福 祉体験事業(地域の 学校との連携) | | 実施 | → | → | → |
| 第 6 支 部 | 新しい仲間を増や していこう | ・サザンプラザや既存 組織との共催事業 行う | 検討 | 実施 | → | → | → |
| | | ・支部のPRを目的と したチラシの作 成・配布(各種事業 で) | 実施 | → | → | → | → |
| | | ・(男性のネットワーク 作りを目的とした) ちよいわるおやし 養成講座の開催 | 実施 | → | → | → | → |

「茶友会」、「すずかけの茶屋」とは

支部社協主催の高齢者を対象とした交流活動(サロン)で、参加者が100円~200円程度を負担しあい、月1回程度開催しています。

支部ごとに名称や内容を工夫して実施しており、「茶友会」は第1支部、「すずかけの茶屋」は第2支部の名称です。市内ではこのほか、第5支部の「よつば茶房」があります。

8. 社協の強化計画

『地域福祉活動計画』に盛り込んだ住民のみなさんの活動を今後も安定して支援できる社協であるため、社協自身の『強化計画』を策定し取り組んでいきます。

この『強化計画』は、

- 1) 事業者としての「使命・経営理念」を明らかにし、
 - 2) 4つの視点から「重点的に取り組むべき課題」を分析し、
 - 3) その解決に向けた「戦略目標」を設定し、
 - 4) 戦略目標ごとの「重点事業」を設定する
- というステップを踏まえて策定しました。

1) 使命・経営理念

印西市社会福祉協議会の使命・経営理念を、

「住民のハートをつなぎ、共に歩む社協」

と設定します。

2) 重点的に取り組むべき課題

課題の分析にあたっては（1）財務の視点、（2）顧客の視点、（3）業務プロセスの視点、（4）人材と変革の視点、の4つの視点からこれまでの業務を見直した結果、以下のような課題を抽出しました。

（1）財務の視点

＜課題＞ 効率的・効果的かつ安定した運営のために

- ・継続性・安定性の面からの財政計画の検討（基金・積立金等の取り扱いを含む）
- ・給与体系の見直しと長期的な視野に立った人件費確保の検討
- ・事業財源の確保（会費や共同募金分配金の増収）

(2) 顧客の視点

<課題> 住民の安心な暮らしのために

- ・ 広報、啓発活動による各事業の市民への周知
- ・ 社協職員の意識改革を周知し、その成果を評価してもらう必要性（市民本位の社協へ）
- ・ 住民ニーズを踏まえた必要なサービスの開発や仕組みづくり
- ・ 相談や苦情対応の強化

(3) 業務プロセスの視点

<課題> 組織運営を円滑に行うために

- ・ 各事業間の連携の強化（社協組織内のつながりの強化）
- ・ 各種団体との連携の強化（民生児童委員協議会、町内会・自治会、NPO など）
- ・ 6つの支部社協への支援の充実
- ・ 各事業の棚卸し（事業効果の検証等）と実施事業の検討（新規事業含む）
- ・ 事業実施方法の検証と改善 → サービス提供、事務処理など必要な時間の確保
- ・ 市民参加、ボランティア参加など外部の協力の活用

(4) 人材と変革の視点

<課題> 組織と人が永続的に成長していくために

- ・ 専門性の高い業務への対応（職員の質的向上）→ 研修等の充実の必要性
- ・ ボランティア等の育成（社協事業のボランティアを含む）

3) 戦略目標

「重点的に取り組むべき課題」の解決に向けた戦略目標を以下のように設定します。

(1) 財務の視点

<戦略目標> **効率的・効果的で透明性の高い運営を目指して**

(2) 顧客の視点

<戦略目標> **住民に身近な社協を目指して**

(3) 業務プロセスの視点

<戦略目標> **フットワークとネットワークのある組織運営を目指して**

(4) 人材と変革の視点

<戦略目標> **仲間が広がり、共に育ちあう質の高い社協を目指して**

4) 重点事業

戦略目標ごとの重点事業を以下のように設定します。

《財務の視点》

| 戦略目標 | サブテーマ | 具体的計画案 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|-----------------------|---------------|-------------------------|------|------|------|------|------|
| 効率的・効果的で透明性の高い運営を目指して | A事業財源の確保を考えよう | ①「会員制度」の再検討 | 実施 | → | → | → | → |
| | | ②会費・募金の集金方法に郵便局の振込みを加える | 実施 | → | → | → | → |
| | | ③共同募金財源事業の積極的PRに努める | 実施 | → | → | → | → |
| | | ④収益事業の継続と新規事業の開拓 | 実施 | → | → | → | → |
| | B給料体系の見直しを図ろう | ①職員の諸手当の見直し | 実施 | → | → | → | → |
| | | ②指定管理者制度を視野に入れた体制づくり | 実施 | → | → | → | → |

《業務プロセスの視点》

| 戦略目標 | サブテーマ | 具体的計画案 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|--------------------------|---------------------------|--|-----------------------------------|------|------|------|------|
| ソフトウェアネットワークのある組織運営をめざして | A業務の合理化を目指そう | ①事業の自己評価と他者評価を行う(各班ごと、1ヶ月単位程度、業務プロセスの視点C-①と同様) | 実施 | → | → | → | → |
| | | ②各班ごとに予算管理を行う | 実施 | → | → | → | → |
| | B支部社協活動のバックアップを強化しよう | ①全職員で支部社協事業に関わる(顧客の視点B-①と同様) | 実施 | → | → | → | → |
| | | C事業間の有機的連携を図ろう | ①情報やニードの共通認識を深める(業務プロセスの視点A-①と同様) | 実施 | → | → | → |
| | ②必要に応じてニード調整会議を行う(発議者は担当) | | 実施 | → | → | → | → |
| | D事業実施方法の検証を図ろう | ①棚卸しが必要な事業をピックアップをする | 実施 | → | | | |
| | | ②ピックアップした事業の検証 | | 実施 | → | → | → |
| | | ③新規事業の開発(顧客の視点D-③も含む) | 実施 | → | → | → | → |

《顧客の視点》

| 戦略目標 | サブテーマ | 具体的計画案 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|---------------|--------------------------|--|------|------|------|------|------|
| 住民に身近な社協を目指して | A 広報を見直そう | ①広報スタッフの増強(各班とボランティアコーディネーターで組織、年間スケジュールを決める) | 実施 | → | → | → | → |
| | | ②広報配布方法の検討 | 検討 | | | | |
| | | ③新配布方法の実施 | | 実施 | → | → | → |
| | B 身近で入りやすい、相談しやすい社協を目指そう | ①(住民から見える社協をめざし)職員全員で地域や現場に足を運ぶ(市民座談会や各事業、業務プロセスの視点B-①と同様) | 実施 | → | → | → | → |
| | C 支部社協をより活発にする為に支援しよう | ①支部社協の課題の再検討 | 実施 | → | → | → | → |
| | | ②支部社協の個別課題の解決(①で解決策が見つかったところから) | 実施 | → | → | → | → |
| | D 生活に密着した事業の充実を目指そう | ①住民参加型在宅福祉サービスの充実(担い手の養成など) | 実施 | → | → | → | → |
| | | ②住民参加型在宅福祉サービスの拡大・内容の検討 | 検討 | → | | | |
| | | ③住民参加型在宅福祉サービスの拡大(新規)事業の実施 | | | 実施 | → | → |

《人材と変革の視点》

| 戦略目標 | サブテーマ | 具体的計画案 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|--------------------------|---------------------------------|--|------|------|------|------|------|
| 仲間が広がり、とてつもない質の高い社協をめざそう | A ボランティアの育成を図ろう | ①ボランティアリーダーの育成を目的としたニード調査を行い、的確な発掘・養成を行う(活動計画部門②-2)の再掲 | 検討 | 実施 | → | → | → |
| | | ②各種ボランティア講座受講者の定着化をめざす | 実施 | → | → | → | → |
| | | ③各種事業における積極的・有効的なボランティアPR活動や募集活動を行う | 実施 | → | → | → | → |
| | B 専門性の高い業務への対応に向け、職員のスキルアップを図ろう | ①各事業の自己評価・他者評価をおこなう(業務プロセスの視点A-①と同様) | 実施 | → | → | → | → |
| | | ②職員の内部研修会を計画的に実施する(研修課題は日常業務から) | 実施 | → | → | → | → |

參考資料

参考1. 策定委員会

1) 策定経過

策定の経過は以下の通りです。

| 開催日時 | 検討議題 |
|----------------------------------|---|
| 第1回 平成18年10月4日(水) 午後2時～4時 | (1) 委員長・副委員長の選任 (2) 計画策定の概要について (3) その他 |
| 第2回 平成18年12月13日(水) 午後2時～4時 | (1) ボランティアアンケート調査・地区座談会の結果の確認、強化計画部門の課題抽出作業について (2) 地域福祉活動計画の課題(案)の検討について (3) その他 |
| 第3回 平成19年2月14日(水) 午後1時半～4時 | (1) 活動計画部門の骨子案の検討について (2) 強化計画部門の進捗状況の報告 (3) その他 |
| 第4回 平成19年5月16日(水) 午後2時～4時 | (1) 地域福祉活動計画(案)について (2) その他 |

2) 印西市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

(目的)

第1条 印西市における地域福祉活動と印西市社会福祉協議会（以下「本会」という。）の事業の充実・強化を図るために、印西市地域福祉活動計画（以下「計画」という。）を策定することを目的として印西市地域福祉活動計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(委員会の構成及び任期)

第2条 委員会は、委員15名以内をもって組織し、次に掲げるもののうちから、本会会長（以下「会長」という。）が委嘱する。

- (1) 学識を有する者
- (2) 社会福祉を目的とする事業者
- (3) 社会福祉に関する活動を行う者
- (4) その他会長が必要と認める者

2 委員の任期は計画の策定が終了したときまでとする。

3 委員に欠員が生じたときの補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第3条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選によってこれを定める。

3 委員長は、委員会の会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第4条 委員会は委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者に会議の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は本会事務局において処理する。

(補則)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この要綱は、平成18年9月13日から施行する。

3) 印西市地域福祉活動計画策定委員名簿

(敬称略)

| 委員の区分 | 氏名 | 所属 | 備考 |
|-----------------|-------|----------------------------|------|
| 学識を有する者 | 山本美香 | 淑徳大学総合福祉学部講師 | |
| 社会福祉を目的とする事業者 | 高橋千枝子 | 特別養護老人ホーム ハートヴィレッチ施設長 | |
| | 中村栄子 | 社会福祉法人印旛福祉会 いんば学舎・草深施設長 | |
| | 加藤綾子 | NPO法人 いんば子どもネットワーク代表 | |
| 社会福祉に関する活動を行うもの | 小名木茂子 | 印西市ボランティア協議会会長 | 副委員長 |
| | 鈴木利 | 印西市民生・児童委員協議会会長 | |
| | 黒川知子 | 印西市障害者団体連絡協議会 | |
| | 松崎千鶴子 | 印西市社会福祉協議会第1支部長 | |
| | 川村満喜雄 | 印西市社会福祉協議会第2支部長 | |
| | 小手好房 | 印西市社会福祉協議会第3支部長 | |
| | 鳥羽満 | 印西市社会福祉協議会第4支部長 | |
| | 金久悦規 | 印西市社会福祉協議会第5支部長 | |
| | 畑田栄一 | 印西市社会福祉協議会第6支部長 | 委員長 |
| | 高橋玲子 | ボランティア活動者 | |
| 会長が必要と認めるもの | 渡邊勉 | 印西市社会福祉課長 | |

参考2. 座談会の結果

これまでの検討経過は以下の通りです。

1) 第1回座談会結果

| 支部 | 開催日 出席者 | 支部活動のよいところ | 支部活動の課題 | 自由意見 |
|------|------------------|---|--|--|
| 第1支部 | 11/ 21 14名 | <ul style="list-style-type: none"> ・和気あいあいである ・役員の役割分担がよくできている ・地域を回って、出前で行事をしているから、地域がよく分かる ・料理が上手で、勉強になる ・自分の楽しみになっている ・役員にいろいろな人が入っている ・寄付が多い | <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアが足りない、育成が必要 ・PR不足である ・若い世代を巻き込みたい ・役員やボランティアの研修の場が欲しい ・他の支部との交流が欲しい ・子育て支援が少ない ・異世代交流が欲しい ・行政との連携をとりたい ・活動拠点が欲しい ・住民がどのようなボランティアを望んでいるかのニード調査が必要 ・予算不足 | <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが集まれる場が欲しい(拠点) ・高齢者の足の確保を考え、街の活性化を図りたい ・高齢者対象で、ジャンボタクシーによるお買い物ツアーが企画できないか ・孤独死の防止を考えたい ・独身者の解消(結婚の奨励) ・地域に気軽に相談できる窓口があったら・・・ ・助け合いが組織的にできないか ・地域の特性を活かした多世代交流を自然な形で・・・ ・子育て事業も第1支部らしく出前でやれないか <p style="text-align: right;">など</p> |
| 第2支部 | 11/ 10 14名 | <ul style="list-style-type: none"> ・役員の間がよい ・ふれあい会食(さくらの会)が充実している ・地域とのつながりができた ・料理が覚えられてうれしい | <ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりが不足 ・人集め(特に男性)が大変 ・昼間独居高齢者の問題 ・拠点が無い(自由に集まれるところ) ・ふれあい会食などの時の足の確保 ・独居高齢者の閉じこもり防止策は何が有効か ・ボランティアが不足 ・子どもたちの支援が不十分 ・社協支部として何が住民の為なのか、分からない ・意見は出るが行動力が不足 ・予算が不足 | <ul style="list-style-type: none"> ・社協のPR不足 ・行事の際の足の確保を考えて欲しい ・ふれあい会食の急な欠席者の分の精算方法が細かい、負担にならないようにして欲しい ・支部社協と町内会の関係を密接にする方法はないか ・ボランティア不足を解消する為の教育を ・地域内に巡回バスがあれば ・高齢者はお助けカードを身につけて歩いてはどうか ・リーダーとなるべき人材の養成を <p style="text-align: right;">など</p> |
| 第3支部 | 11/ 28 11名 | <ul style="list-style-type: none"> ・役員やボランティアが協力的 ・楽しくアットホームなところが良い ・気兼ねなく話し合いができる ・すべての地区から役員が選出されている ・福祉センターが近い | <ul style="list-style-type: none"> ・役員の年齢層を広めたい ・子どもたちとのふれあい事業の充実 ・他の支部との交流が少ない ・予算が少ない | <ul style="list-style-type: none"> ・社協のPR不足(よい事例を公表する) ・子どもや子育て世代へのアピール ・福祉教育の充実を ・公的サービスができないサービスを社協がやるべき ・事業に必要な個人情報開示を ・新旧住民の架け橋になって欲しい ・ご近所付き合いの復活を ・町内会長と支部役員や民生委員のネットワークづくりができたなら |

| | | | | |
|------|--------------|--|---|---|
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・社協に専用福祉バスがあったらいい ・地域の中に老人のふれあいの場所が欲しい ・予算を増やして欲しい <p style="text-align: right;">など</p> |
| 第4支部 | 11/11 14名 | <ul style="list-style-type: none"> ・役員の協調性がよい ・女性が元気 ・新旧が調和し、地域の特性を活かしている ・役員構成がよい ・民生委員とのつながりがよい | <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアが不足、そのリーダーも不足 ・情報が入手困難、情報発信が不足 ・多世代に向けた事業が足りない ・拠点が無い ・行事のときの足の確保ができない ・役員の負担が大きい ・予算がない | <ul style="list-style-type: none"> ・活動の拠点が欲しい ・長期的で継続的な計画の策定を望む ・住民の組織化が課題 ・地域の中に目玉(お祭りのような)になるものが欲しい ・地域にボランティアセンターが欲しい ・社協に支部の行事に使える公用車が欲しい ・他の福祉関係団体との連携が欲しい ・独居高齢者だけでなくすべての高齢者を対象にした事業ができないか ・子どもたちが合唱や合奏などを気軽に発表できる場がほしい <p style="text-align: right;">など</p> |
| 第5支部 | 11/20 14名 | <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な奉仕の精神がすばらしい ・和気あいあいである ・知り合いが多くなり、親交が深められる ・誰とでもはなしやすい ・特技や能力がいかされている ・リーダーがすばらしい ・皆さんに若さをもらっている ・手づくりの良さがわかった ・多くをまなべる ・OB役員が気に掛けてくれる | <ul style="list-style-type: none"> ・対象者拡大へのPR不足 ・社協本部から積極的支援を ・若い世代のボランティアの参加が足りない ・拠点が欲しい(福祉センターが遠い) ・役員負担が大きい ・高齢者の足の確保が不足 ・予算不足 ・賛助会費と一般会費の差が不明確 | <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が参加できる企画がほしい ・新旧住民の垣根をなくしたい ・リタイヤした人材の活用が必要 ・社協広報紙に支部社協の記事をもっと多く掲載して ・困りごと対応マップができたら ・高齢者パワーをもっと活用して ・ボランティア活動支援用の公用車があれば <p style="text-align: right;">など</p> |
| 第6支部 | 10/25 14名 | <ul style="list-style-type: none"> ・やりがいや生きがい得られる ・知人、友人が増える ・高齢者に喜んでもらえる ・情報が得られる ・料理が学べる ・子どもたちと交流ができる | <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーが少ない ・要支援者の情報が得にくい ・活動拠点(資材の保管場所)が欲しい ・賛助会費集めが大変 ・ふれあい昼食の会場を変更したい ・献立づくりが大変 ・地域へのアピールが不足 ・組織のあり方 ・独居高齢者の連れ出し方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・支部社協と町内会との連携 ・地域の商店や企業への働きかけ ・本当に困っている人の役に立ちたい ・要支援者のネットワークづくり ・行き交う人があいさつできる街に ・家族を含めた活動計画が必要 ・地域福祉の人材の確保を ・男性でも入りやすいサークルづくりを ・ボランティア貯金制度 <p style="text-align: right;">など</p> |

2) 第2回座談会結果

| 支部名 | 開催日 場所・人数 | 主 な 内 容 |
|------|---------------------------------|---|
| 第1支部 | 1/16 総合福祉 センター 13名 | 「人材の確保と育成について」を問題点として話し合いを開始。 支部や社協のPRの強化や組織間の連携の強化、特に若い世代への育成が野必要性を再認識。 ボランティアの本質は時間と労力の提供、現ボランティアとこれから活動する人に向けた研修の重要性を確認。 目に見える形のPRをめざし、人材の育成や組織間ネットワークにつなげていくことにまとまる。 |
| 第2支部 | 1/17 小林公民 館 13名 | 「地域とのつながり」を中心に話し合いを開始。 要支援者の個人情報把握の課題や地域とはつながりたくない人の存在の確認。 「ボランティアなどの人材を発掘する為には」「団塊の世代を巻き込む為には」を協議。 PRの重要性、口コミやイベントの有効性を認識。 現在の事業の根強く・地道な継続も重要性も認識。 |
| 第3支部 | 未実施 | |
| 第4支部 | 1/18 そうふけ 公民館 14名 | 「ボランティアやリーダー不足の原因」についてから話し合いを開始 ボランティアに参加することに障害(ハードル)が存在、情報が不足している。しいては多重役員となり、負担が大きくなることを確認。 団塊の世代を巻き込むための飲みニケーションの企画、無理のないボランティアのアピール、子育て支援事業から人材発掘、小中学校との連携、事業対象者の幅を広くしてみるなどの方策が提案。これらの事業をつなげてゆく中で人材確保を目指す。PRは口コミが有効。 |
| 第5支部 | 2/7 フレンド リープラ ザ 12名 | 「知らせる」(対象者や協力者に対して)ことについて話し合いを開始 個人通知や形あるもの(チラシ)が効果が大きい。→見える活動や直接的活動でPRしてゆく必要性。ボランティア(人材)確保には、自由性や突発的参加も許せる土壌とPRの必要性の認識。 2007年問題、男性陣をいかに地域に出してゆくか。地域のなかまづくりをどうするか。課題整理。 拠点は、まず倉庫確保から。 |
| 第6支部 | 1/24 中央駅前 公民館 11名 | 「メンバーが少ない」「要支援の人の情報が得にくい」「活動拠点が欲しい」「賛助会費集めが大変」「ふれあい昼食の会場の変更」「献立づくりが大変」「地域へのアピールが不足」「組織のあり方」の各問題点を協議。 人材確保と地域へのピーアールを兼ねた企画(料理教室など)の検討、広報で取り上げる話題の検討、役員のスタッフユニホームを検討など、具体的方向性を認識。 |

3) 第3回座談会結果

| 支部 | 開催日 場所・参加人員 | 目標 | 具体的な事業計画 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 |
|------|-----------------------------|---|--|----------------|------|------|------|------|
| 第1支部 | 19年3月14日 中央公民館 13名 | ・更なるネットワークを広げよう | ・出前子育てサロンの実施(茶友会のこども版) | 検討 | 実施 | → | → | → |
| | | | ・多世代交流事業の実施(保育園などを巻き込んで) | | 検討 | 実施 | → | → |
| | | | ・お父さんサロンの実施(男性の地域参加を促そう) | 検討 実施 | → | → | → | → |
| 第2支部 | 19年3月14日 小林公民館 11名 | ・現在の事業の発展をめざそう | ・すずかけの茶屋における子育て世代と高齢者の交流を深める(子育て支援事業の継続充実) | 継続 充実 | → | → | → | → |
| | | | ・さくらの会(ふれあい会食)の対象者の見直しと拡大 | 見直し 拡大 | → | → | → | → |
| | | | ・支部のネットワークを活用した新規事業の開拓、事業展開 | 開拓 事業 展開 | → | → | → | → |
| 第3支部 | 19年4月6日 総合福祉センター 8名 | ・第3支部らしい事業展開をはかろう | ・こどもとおとしよりのふれあい会(新規事業) | 開催 | → | → | → | → |
| | | | ・ボランティア募集を広報紙に掲載する | 実施 | → | → | → | → |
| | | | ・部会以外にも定期的な話し合いの場を作る | 実施 | → | → | → | → |
| | | | ・地区交流事業の継続・充実(広報活動とネットワークづくり) | 継続 充実 | → | → | → | → |
| 第4支部 | 19年4月18日 そうふけ公民館 14名 | ・つなげるつながる中で人材確保を目指そう | 支部ボランティア研修の参加枠を一般市民に拡大する | 実施 | → | → | → | → |
| | | | 小中学校や関連団体との共催事業を企画実行 | 検討 | 実施 | → | → | → |
| | | | ふれあい文化祭りへの積極的参加 | 実施 | → | → | → | → |
| | | | 地域再発見事業(オリエンテーリングなど) | 検討 | 実施 | → | → | → |
| 第5支部 | 19年3月7日 フレンドリープラザ 13名 | ・活動する仲間を増やそう (色々な人を対象とした事業・講座を展開しよう) | 介護講座(在宅介護や認知症サポーター養成) | 実施 | → | → | → | → |
| | | | 団塊の世代を対象とした事業(料理教室・男性のおしゃれ講座など) | 実施 | → | → | → | → |
| | | | 小中学生に向けた福祉体験事業(地域の学校との連携) | | 実施 | → | → | → |
| 第6支部 | 19年4月9日 サザンプラザ 12名 | ・新しい仲間を増やしてゆこう | サザンプラザや既存組織との共催事業を行う | 検討 | 実施 | → | → | → |
| | | | 支部のPRを目的としたチラシの作成・配布(各種事業で) | 実施 | → | → | → | → |
| | | | (男性のネットワーク作りを目的とした)ちよいわのおやし養成講座の開催 | 実施 | → | → | → | → |

参考3. ボランティアアンケートの結果

1) アンケートの概要

1. アンケートの趣旨

地域福祉活動計画を策定するにあたり、現在市内各地でさまざまな活動をされている市民の意見を伺い計画に反映する。

2. 実施時期、方法

平成18年8月～9月にかけて、各種ボランティアの活動日にあわせて直接配布、直接回収

3. 調査対象者

印西市内でボランティア活動をされている方

4. 配布、回収状況

配布数 500通、回収数 387通

5. 質問項目

(1) 本人について

(性別、年齢、住所、ボランティア活動の場所や内容、活動のきっかけ、活動年数、活動頻度、民生委員等の委嘱の有無)

(2) ボランティア活動を続ける理由

(3) 活動上の悩み

(4) 活動充実のために必要なこと

(5) 「ふれあいと支えあいのあるあたたかな地域づくり」に必要なこと

(6) 地域での問題

(7) 今後必要なボランティア、地域活動

(8) 社会福祉協議会に望むこと

※調査結果の留意点

- 集計数表の割合は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、回答比率を合計しても100%にならない場合があります。
- 回答比率(%)はその設問の回答者数を母数として算出しているため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがあります。

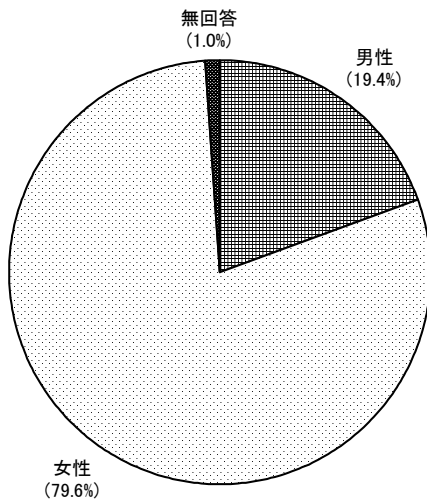
2) アンケート結果

設問1 あなたのことを教えてください。

A 性別

■女性が8割と圧倒的に多い。

(上段:実数値 下段:構成比)



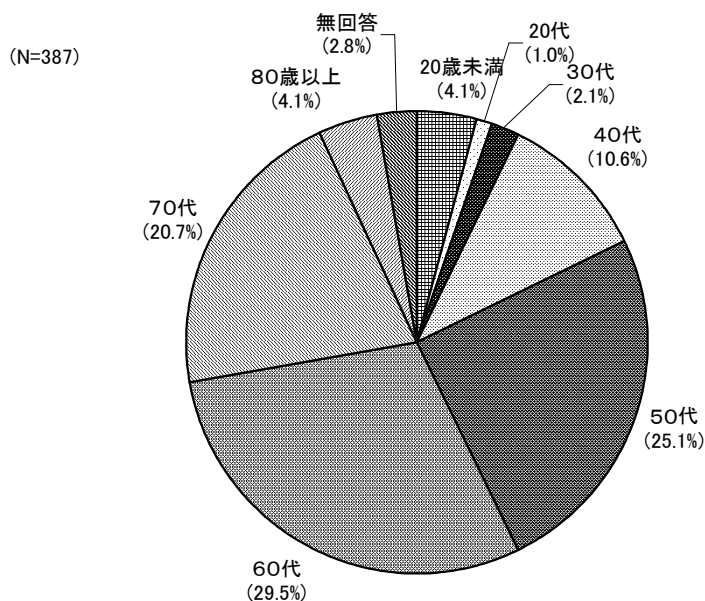
| | 男性 | 女性 | 無回答 | 計 |
|----|-------------|--------------|-----------|---------------|
| 全体 | 75 19.4% | 308 79.6% | 4 1.0% | 387 100.0% |

B 年齢

■60代の30%を中心に、50代以上の世代が8割を占める。

(上段:実数値 下段:構成比)

| | 20歳未満 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80歳以上 | 無回答 | 計 |
|----|------------|-----------|-----------|-------------|-------------|--------------|-------------|------------|------------|---------------|
| 全体 | 16 4.1% | 4 1.0% | 8 2.1% | 41 10.6% | 97 25.1% | 114 29.5% | 80 20.7% | 16 4.1% | 11 2.8% | 387 100.0% |



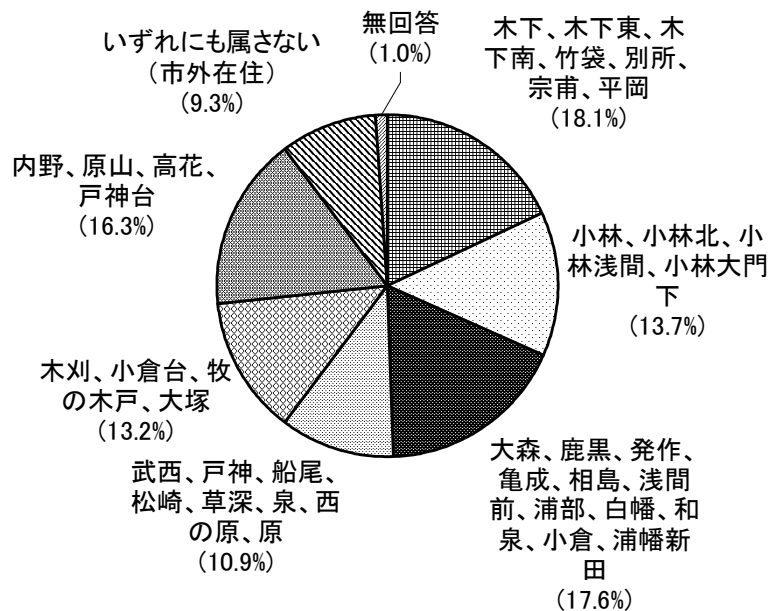
C 住所

■市内各所から満遍なく参加されている。市外在住者も1割近い。

(上段:実数値 下段:構成比)

| | 木下、木下東、木下南、竹袋、別所、宗甫、平岡 | 小林、小林北、小林浅間、小林大門下 | 大森、鹿黒、発作、亀成、相島、浅間前、浦部、白幡、和泉、小倉、浦幡新田 | 武西、戸神、船尾、松崎、草深、泉、西の原、原 | 木刈、小倉台、牧の木戸、大塚 | 内野、原山、高花、戸神台 | いずれにも属さない(市外在住) | 無回答 | 計 |
|----|------------------------|-------------------|-------------------------------------|------------------------|----------------|--------------|-----------------|-----------|---------------|
| 全体 | 70 18.1% | 53 13.7% | 68 17.6% | 42 10.9% | 51 13.2% | 63 16.3% | 36 9.3% | 4 1.0% | 387 100.0% |

(N=387)



E ボランティア活動を始めたきっかけは、どのようなものでしたか。

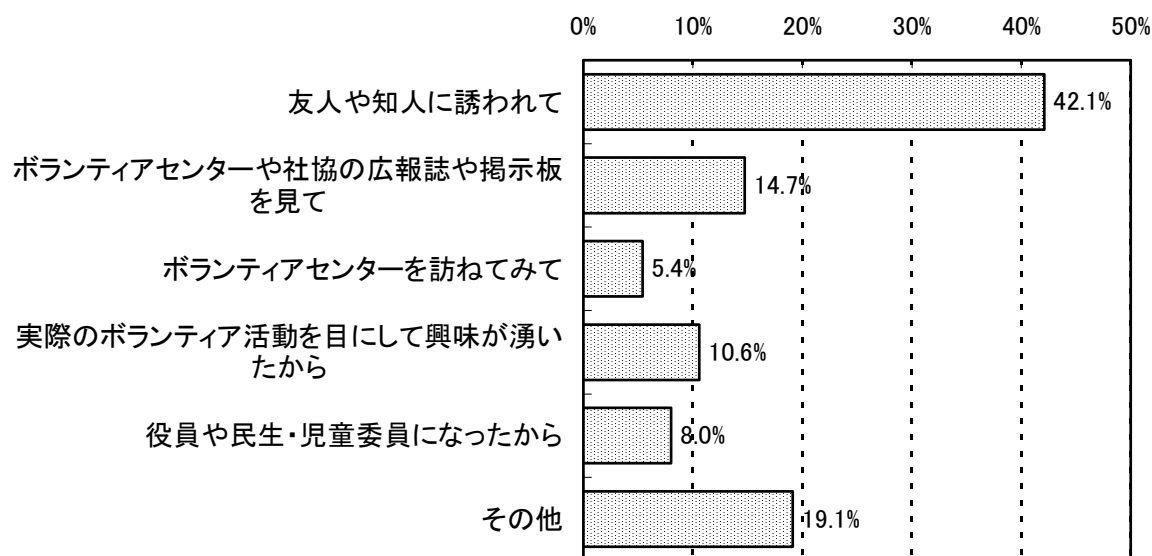
■ボランティアのきっかけは「友人や知人に誘われて」が最も多い。

■「その他」の理由では、「市の広報をみて」「市の講座受講をきっかけに」「所属団体からの依頼」「自発的に」などが挙げられている。

(上段:実数値 下段:構成比)

| | 友人や知人に誘われて | ボランティアセンターや社協の広報誌や掲示板を見て | ボランティアセンターを訪ねてみて | 実際のボランティア活動を目にして興味が湧いたから | 役員や民生・児童委員になったから | その他 | 無回答 | 計 |
|----|--------------|--------------------------|------------------|--------------------------|------------------|-------------|-----------|---------------|
| 全体 | 163 42.1% | 57 14.7% | 21 5.4% | 41 10.6% | 31 8.0% | 74 19.1% | 0 0.0% | 387 100.0% |

(N=387)



F ボランティア活動をはじめてどのくらいになりますか。

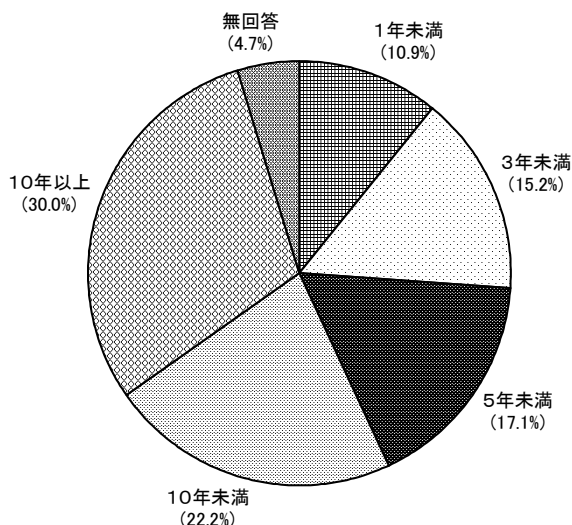
■「10年以上」が30%、次いで「(5年以上)10年未満」が22.2%で、5年以上の経験者が5割を超える。

■「1年未満」(10.9%)や「(1年以上)3年未満」(15.2%)など、新しいメンバーの参加もみられる。

(上段:実数値 下段:構成比)

| | 1年未満 | 3年未満 | 5年未満 | 10年未満 | 10年以上 | 無回答 | 計 |
|----|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|------------|---------------|
| 全体 | 42 10.9% | 59 15.2% | 66 17.1% | 86 22.2% | 116 30.0% | 18 4.7% | 387 100.0% |

(N=387)



G 実際にどのくらいの頻度(1年間平均)で活動されていますか。

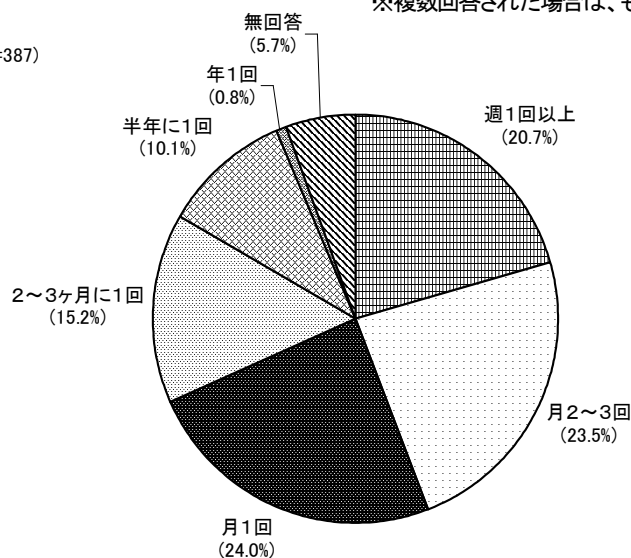
■活動の頻度は「月1回」(24.0%)、「月2~3回」(23.5%)の順に多く、「週1回以上」も20.7%で続く。

(上段:実数値 下段:構成比)

| | 週1回以上 | 月2~3回 | 月1回 | 2~3ヶ月に1回 | 半年に1回 | 年1回 | 無回答 | 計 |
|----|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----------|------------|---------------|
| 全体 | 80 20.7% | 91 23.5% | 93 24.0% | 59 15.2% | 39 10.1% | 3 0.8% | 22 5.7% | 387 100.0% |

※複数回答された場合は、もっとも頻度の高い回答を採用した。

(N=387)



H 現在民生・児童委員や保護司等の委嘱を受けていますか。

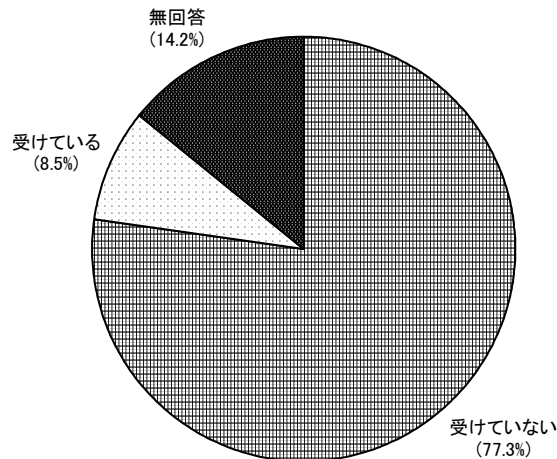
■福祉関連の委嘱を受けている人は8.5%・33人で、内訳としては「民生委員児童委員」が26人、「保護司」が3人となっている。

(上段:実数値 下段:構成比)

| | 受けていない | 受けている | 民生委員 | 保護司 | 人権擁護委員 | 無回答 | 計 |
|----|--------------|------------|------------|-----------|-----------|-------------|---------------|
| 全体 | 299 77.3% | 33 8.5% | 26 6.7% | 3 0.8% | 0 0.0% | 55 14.2% | 387 100.0% |

(N=387)

【受けていると答えた人のみ】

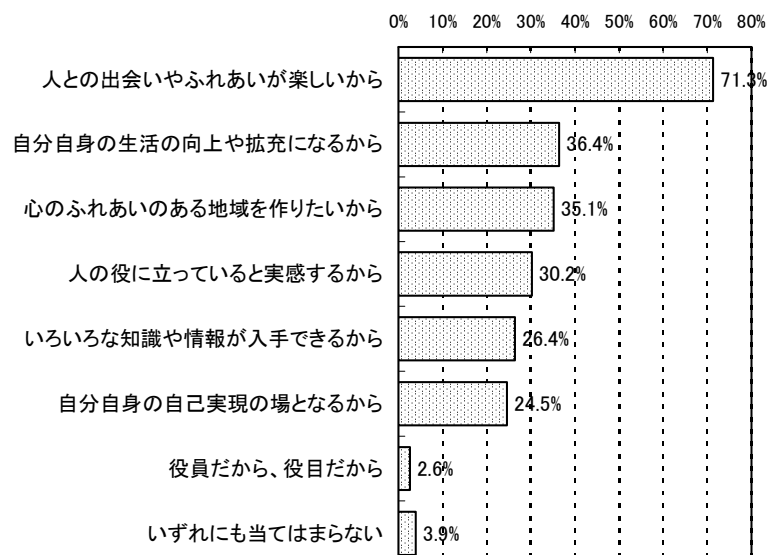


設問2 ボランティア活動をしているのは、なぜですか。(3つまで〇)

■ボランティア活動をしている理由としては、「人との出会いやふれあいが楽しいから」が71.3%と圧倒的に多い。

(上段:実数値 下段:構成比)

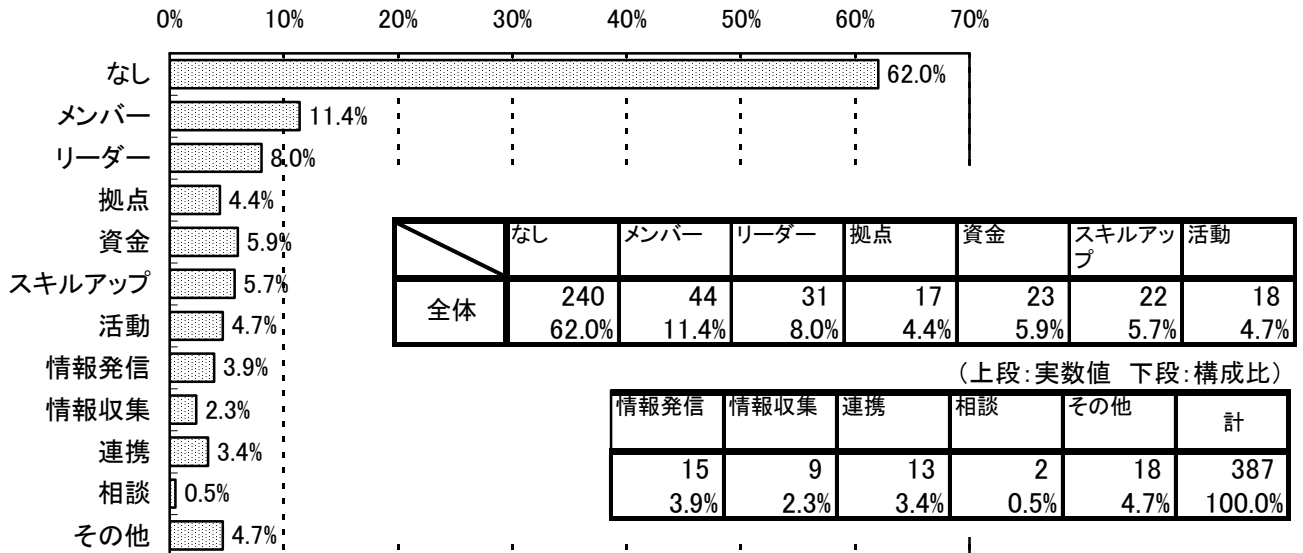
| | 人との出会いやふれあいが楽しいから | 自分自身の生活の向上や拡充になるから | いろいろな知識や情報が入手できるから | 自分自身の自己実現の場となるから | 人の役に立っていると実感するから | 心のふれあいのある地域を作りたいから | 役員だから、役目だから | いずれにも当てはまらない | 計 |
|----|-------------------|--------------------|--------------------|------------------|------------------|--------------------|-------------|--------------|---------------|
| 全体 | 276 71.3% | 141 36.4% | 102 26.4% | 95 24.5% | 117 30.2% | 136 35.1% | 10 2.6% | 15 3.9% | 387 100.0% |



設問3 ボランティア活動をしている上で、困っていることや悩んでいることがありますか。(いくつでも○)

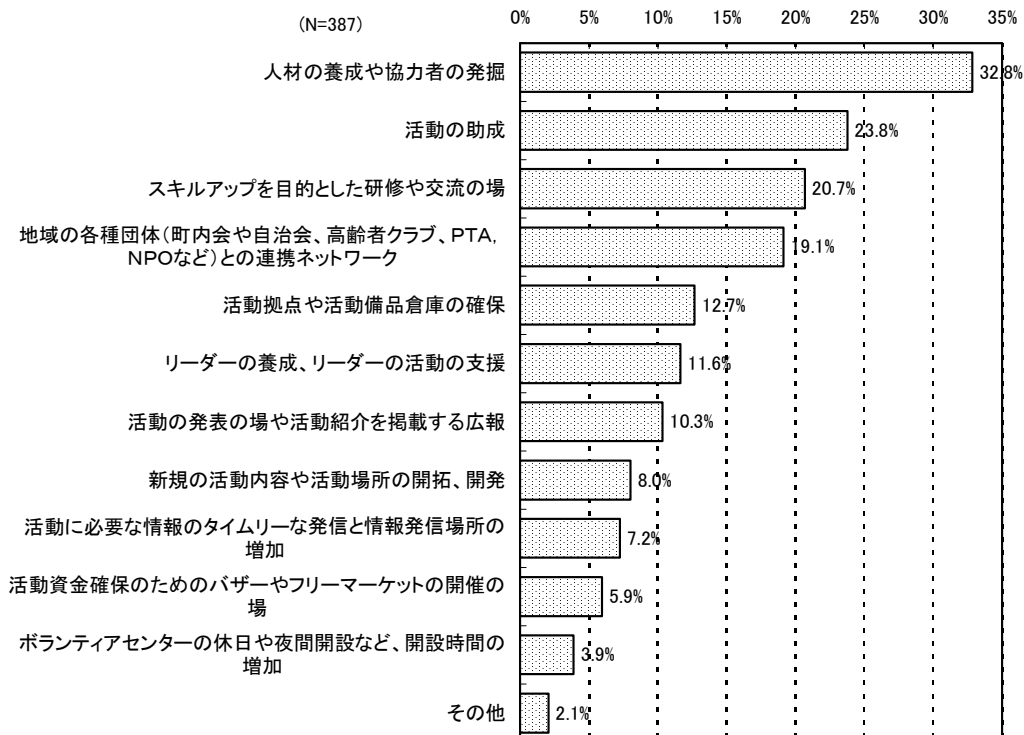
■ボランティア活動上の困りごと、悩みについては、62%が「なし」と答えた。

■困りごとがある場合、もっとも多いのは「メンバーについて」(11.4%)、次いで「リーダーについて」(8.0%)と、人材に関することが上位を占める。



設問4 現在のボランティア活動をより充実するために、どんなことがあったらいいと思いますか。(3つまで○)

■活動の充実に向けては、「人材の養成や協力者の発掘」が最も多く 32.8%、次いで「活動の助成」(23.8%)、「研修や交流の場」(20.7%)と続く。



(上段:実数値 下段:構成比)

| | 人材の養成や協力者の発掘 | リーダーの養成、リーダーの活動の支援 | 活動拠点や活動備品倉庫の確保 | 活動の助成 | 活動資金確保のためのバザーやフリーマーケットの開催 | スキルアップを目的とした研修や交流の場 | 新規の活動内容や活動場所の開拓、開発 | 活動の発表の場や活動紹介を掲載する広報 | 活動に必要な情報のタイムリーな発信と情報発信場所の増加 | 地域の各種団体(町内会や自治会、高齢者クラブ、PTA、NPOなど)との連携ネットワーク | ボランティアの休日や夜間開設など、開設時間の増加 | その他 | 計 |
|----|--------------|--------------------|----------------|-------------|---------------------------|---------------------|--------------------|---------------------|-----------------------------|---|--------------------------|-----------|---------------|
| 全体 | 127 32.8% | 45 11.6% | 49 12.7% | 92 23.8% | 23 5.9% | 80 20.7% | 31 8.0% | 40 10.3% | 28 7.2% | 74 19.1% | 15 3.9% | 8 2.1% | 387 100.0% |

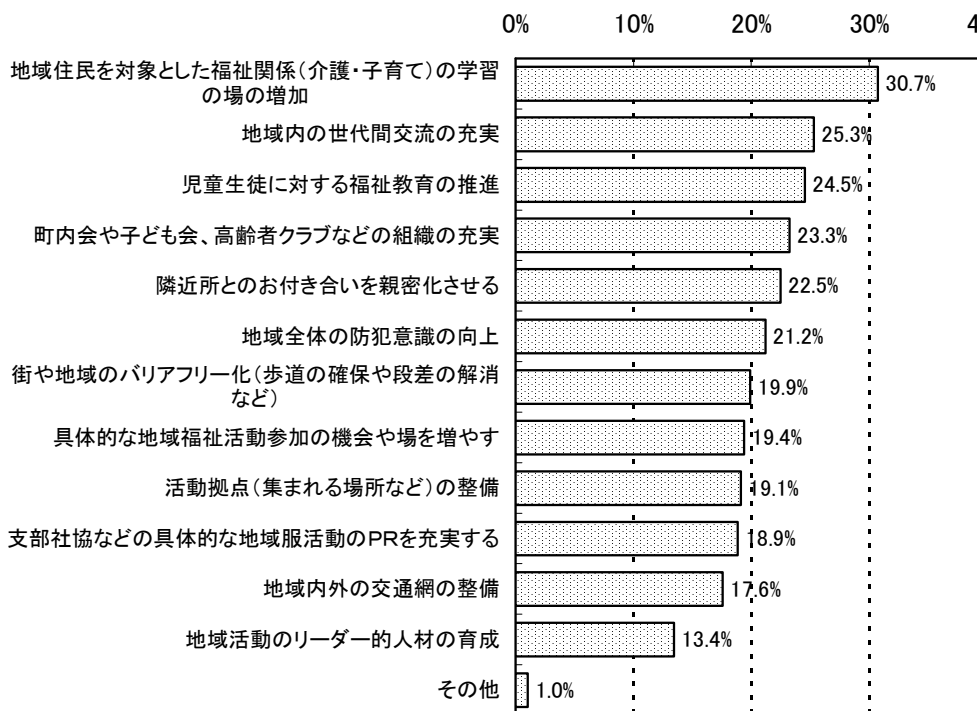
設問5 『ふれあいと支えあいのあるあたたかな地域づくり』のためには何が必要だと思いますか。(5つまで○)

■これからの地域づくりで必要なものについてはどの選択肢も一定数回答を得られたが、なかでも「福祉関係の学習の場の増加」が30.7%とやや多い。

| | 児童生徒に対する福祉教育の推進 | 地域住民を対象とした福祉関係(介護・子育て)の学習の場の増加 | 支部社協などの具体的な地域服活動のPRを充実する | 隣近所とのお付き合いを親密化させる | 町内会や子ども会、高齢者クラブなどの組織の充実 | 地域全体の防犯意識の向上 | 地域内の世代間交流の充実 |
|----|-----------------|--------------------------------|--------------------------|-------------------|-------------------------|--------------|--------------|
| 全体 | 95 24.5% | 119 30.7% | 73 18.9% | 87 22.5% | 90 23.3% | 82 21.2% | 98 25.3% |

(上段:実数値 下段:構成比)

| 地域活動のリーダー的人材の育成 | 具体的な地域福祉活動参加の機会や場を増やす | 街や地域のバリアフリー化(歩道の確保や段差の解消など) | 活動拠点(集まれる場所など)の整備 | 地域内外の交通網の整備 | その他 | 計 |
|-----------------|-----------------------|-----------------------------|-------------------|-------------|-----------|---------------|
| 52 13.4% | 75 19.4% | 77 19.9% | 74 19.1% | 68 17.6% | 4 1.0% | 387 100.0% |



設問6 地域の中で何か問題はありますか。(自由記入)

■「近所の人づきあいが希薄」「交流の場、機会の不足」「行事等への参加促進、きっかけづくり」などの声が比較的多い。

■「地域で困っている人を支えるしくみ」「団体・組織間のつながり・連携、人材確保」への不満も多い。

●近所づきあい、交流の場

・地域の方とのふれあいの場が少ない。／・交流の場が減っている。／・近所づきあいが少なくなっている。／・個人個人のつながりが少ない。／・人間関係が希薄化している。／・世代間の交流が少ない。／・隣近所のおつき合い(特に独居老人、老世帯の見守り)。／・隣近所との付き合いがとても薄い。また、付き合いの親密化を望まない傾向も感じられ、大変難しい問題だと思っている。／・若い人たちの意識にギャップがある。ニュータウンは寄せ集めの感があり、心を許すまで時間がかかる。／・地域住民と集合住宅居住者との交流の機会が無く、危険物、ごみ捨ての方法など問題が多い。／・新興住宅地で隣近所の付き合いがない。どのような人達かわからず、どのような問題があるのかもわからない。／・マンション内の自治会員の減少と交流のなさ、役員をしたくない為に無くなってしまった子ども会、異世代交流がなく、顔も知らない人たちが多くいること。／・井戸がないので井戸端会議ができない。何か工夫を。集ってと言っても来ない。

●行事等への参加、きっかけ

・イベント等にもっと参加して欲しい。／・福祉の行事の場あまり参加したくないお年寄りが多い。／・高齢者世帯が多くなり、行事への参加に難を示すことが多くなった。／・一人暮らしやそれに準ずる家庭のお年寄りに地域(外)にもっと出てきてもらう機会が必要。／・動ける高齢者が増えていて、活動するきっかけがない。／・地域活動に参加する人と参加しない人がはっきり別れてしまっている。／・動いている人はいろんな所で活動している。動いていない人を動かすこと。／・市内の行事の中で、印西の祭りといえばこれだという定番をつくって欲しい。これまでのコスモスまつり、ラーバンまつり、産業まつりなど、どれも中途半端である。主催が違うからなどと言わず連携して市民も参加してつくりたい。

●支えあいの仕組み

・困っている人の“困り感”が地域に伝わらない。／・地域に課題がある場合の解決方法や手段がなく、主体となって動く団体等もない。／・何が不足して何が欲しいのか。それぞれの役員が立場上一方的に考え、受けるほうも与えられるまま。活力ある地域にしたい。／・個人情報保護規制が強すぎて役所から情報を得ることができないため、一人暮らしでなくても家族の中で浮き上がっている高齢者の交流ができない。／・孤独な人が結構まわりにいるようですが、手を差し伸べるのは難しいのでしょうか。／・「さわやかコミュニティー」が名前ばかりのようで不満です。

●組織間のつながり、連携、人材確保

・地域内のボランティア活動の横のつながりが少ない。／・各活動グループの横の連携がうすい。／・形だけの組織が余りにも多い。／・活動の認識、人材確保、横の連携／・後継者がいない。／・組織の高齢化、若い人の入会が少ない。また、入会してもらっても忙しいことで参加してもらえない。

●犯罪等への不安

・防犯、防災対策。／・西の原、原エリアも来た当初はゆったり安心して暮らしていたが、今では治安も悪くなったように思う。／・入居当時より治安が悪くなった。例えば自転車にいたずらされたり、マンションの照明を壊されたり、放置自転車も見かける。

●街なかのモラル

・カラスがゴミをつついてバラバラにしてしまう。／・無断駐車。

●バリアフリー

・マンションのバリアフリーの実施。階段の手すり等の設置など。ないところが多い。／・高齢による手足の不自由な方へのケア(外出が思うように出来ない方)

●街の利便性

- ・高齢者が歩いていける範囲に店がないので不便。大型店よりも近くの店を望みます。／・郵便局があればよい。／・人口6万人の市に入院・手術のできる施設がないこと。介護施設も少ないことが問題です。／・電車がなくて街から出られない。／・電車賃が高い。

●活動の場所

- ・演奏は音を出すのでこの場所でもよいわけではない。自主企画でライブをし、皆さんを招待したりしたくても場所がない。場所をみつけてもなかなか貸してくれなかったり費用がとてまかかったりする。／・上記の通りレベルが高いというイメージを持ってもらいたい。

●活動資金

- ・資金不足。

●情報不足

- ・福祉に関する情報が少ない。

設問7 これからはどのようなボランティア活動や地域活動があったらよいと思いますか。(自由記入)

■「気軽なふれあい」「異世代間の交流」「団体・組織間の交流」など、人と人との出会い、交流の場づくりを求める声が多い。

■従来の活動の充実のほか、「短時間でも動ける活動の工夫」や「ゴミ出しボランティア」など、新しい視点からの指摘もみられる。

●気軽なふれあい、地域での交流

- ・人とのふれあいを増やした方がよいと思う。／・もっと地域の人たちとふれあい、なかよくする。／・顔の見えるおつきあい。／・持ちつ持たれつの相互助け合いの精神が基本で、そのような気持ちのある方の集まりの場をつくる努力が必要。そこから何ができるか、こんなことは役に立つのか等、生活密着型の簡単なボランティア活動が生まれることを目標とする。／・皆が集まって話し合う場所があったら良いと思う。／・普段仕事をしていると近所とのふれあいが少なく、家族構成などよくわからないので交流の場が出来ればよいが、現状では難しいと思う。機会を見て参加したいと思う。／・住民が困難に思っている声を気軽に伝えられる方法が欲しい。また、住民も積極的に協力をしていくような意識を持つようにする必要があると思う。／・シニア世代を中心とした地域内の交流。

●異世代間の交流

- ・思いついた時、気軽に誰もが、特に若者(高校生、大学生)が地域に密着し活動できる場所、出会いの場の設置。／・世代を越えた交流があるとよいと思う。／・高齢者が増えるので、若い人(子供)とふれあえる場が欲しい。／・子、親、年寄り、3世代皆で活動、交流出来る行事。具体的に思い浮かばないが、地域がにぎやかになったらと思う。／・高齢者と幼稚園生や小学生間の交流、施設訪問の活発化。また、これら施設へのアニマルセラピーの導入。／・高齢者が子どもたちに教えてあげること、子どもたちが高齢者にしてあげることをもっと増やしたら良い。子ども会の復活や音楽会など、定期的集る場を作る活動。／・児童、子供たちに「生」に音楽を聴かせたい。CDとは違って演奏者の息づかいまでふれることができると思います。／・就学前の幼児、障がい児、知的障がい者、高齢者等区別なく一緒に過ごせる日中の通所ケア、憩いの場のようなところ。

●団体、組織間の交流

- ・ボランティア同士の交流。気軽な交流会。／・各ボランティアグループの交流会や発表会などさらに発展させる。／・各種委員会が多々あるようだが、年に何回か顔を合わせて問題点を話し合う場がほしい。堅くならずに。

●見守り

・元気な高齢者による子供たちへの「何か」の働きかけ、見守りなど。／・高齢者世帯等に対するの適当な距離を置いた見守りボランティア。／・高齢者(一人暮らし)に1ヶ月1～2回の声掛け運動をした方が良い。／・私たちの地区には地区だけで行われる活動がないので何かやってみようと思う。／・地域全体がボランティア精神で老人、子供を危険から守れるような活動。／・幼い子供たちを狙う犯罪が増加しているの、学校区内で一度帰宅したお子さん達が大人の目の届くところで(ボランティア)安全に、楽しく、子供どうしの交流ができる施設、地域活動があればと思っています。

●移動支援、外出支援

・足の不便なところ。ミニバスでは、対応できないところもある。病院の送迎ボランティアなど。有料でもよい。／・送迎サービスは、活動ボランティアがすべて。ニュータウン地区にも設置し、利用料金の利用者負担やボランティア活動者の時間的な負担を軽減すべきと考える。／・高齢者に対する外出支援など、送迎の方法としての活動の方向性。特に雨天等の悪条件の際の足の便等。／・今のふれあいバスを年に2回くらい貸し切りにして、社会の流れから取り残されている高齢者を対象にして新しい街に出かけ、世の移り変わりを体験させたいと思う。／・市役所のバスをもっと自由に(活動のために)使えないのか。

●地域での活動(見回り、防犯、清掃など)

・夜の警備。／・パトロール。／・夜回り。／・防犯のためパトロール強化。／・地域ごとに清掃活動を皆でやる。／・地域で、活動できる高齢者をまとめるリーダーの育成をし、高齢者による地域活動をする。防犯や遅くまで残れる学童保育。

●個人での活動

・おおげさに考えず、ゴミを一つ拾うことから始めてもよいと思う。／・大きな団体でなく自分でできることで人の役に立つことがうれしいので自由にしたい。友達が時々協力してくれる。／・個人でできることをやっている。団体活動ではなく、個人でボランティアをしている人は多いのではないかと思います。

●活動方法の工夫

・近所に短時間で行える活動が欲しい。／・時間がなかなかとりにくい人でも自分の生きがいの一つとして、短時間でも取り組めるようなボランティア活動があると良いと思う。／・現在仕事を持っているが、ホームヘルパー2級を取得したので資格を生かせるようなボランティア活動を仕事に差し支えない範囲でしたいと思っている。

●活動内容の拡充

・子育て支援といって幼児を中心にしていますが、もっと幅広く支援をしてもらいたい人、要望があると思う。障がい児、小学生まで広げて支援をしてあげられる体制を整備して欲しい。／・今後はボランティアだけでなく、生涯現役サポートセンターのような内容を望む人が多くなると思いますので、シルバー人材センター同様サポートセンターがよいと思っています。／・精神障がい者に対する支援が全くない。／・視覚障がいの方のお手伝いの場。／・傾聴ボランティアが福祉センターなどで井戸端会議の延長として気軽にできるとよい。／・花いっぱいボランティア。人が呼べる事業へのボランティア。／・具体的な地域活動参加の機会や場を増やし、今までの活動を活かしながら、更に知識を求め、出し合い、(試行錯誤しながらも)内容を充実させていけたらと思う。(幼児を持つ母親との雑談の場で)／・お互いに困った時に気軽に声かけの出来る互助制度が確立されたらこれからの高齢社会に向け安心して生活ができるのではないかと思います。

●新しい取り組み(ゴミ出しボランティア、全員加入、心のケアなど)

・必要なことからのボランティア。ゴミ問題は重要だと思う。ゴミを出せない方々のためにゴミボランティアを行いたい。／・ゴミ(生ゴミ、粗大ゴミ)出しボランティアが必要。粗大ゴミの方は、家の中から収集場所へ運ぶことが年寄りには難しい。新聞とかは小中学生が回収に行ってもよいのではないかと。／・ゴミ出しや買い物の手伝いなど、若い方が高齢者の家庭のサポート。／・住民の義務として、共助の組織のどれか1つに必ず加入する運動を展開する。／・心のケア活動。／・心の活動が大切。

●学習、研修、講座、知識の習得

・これから色々勉強していきたいと思う。／・手話講習会「入門」→「初級」→「応用」の昼間、夜間の開催等。／・ボランティア関連の講座、行事などのPRをもっと欲しい。広報だけでは足りない。

●ボランティアへの入り口整備

・ボランティア室のようなものを設置する。／・子供たちにもっとボランティアに参加する機会を与える。／・個人でも手軽にボランティア活動に参加できるきっかけをつくって欲しい。／・もっと若い人の参加があればよい。／・もっと若い人たちに参加して欲しいのでPRの必要を感じる。／・高齢者の活用。

●現状維持

・今のままでいいと思う。／・現在の活動を充実すれば良い。／・今で充分。

●その他

・学校長が率先して子供たちのあいさつ運動をリードする。校長の顔が見えない。／・従来組織の改善。

設問8 社会福祉協議会に望むことはありますか。(自由記入)

■「社会福祉協議会自体の認知度が低い、PRが必要」「市内進出企業への賛助会員要請」など、周知と経営安定化の提言が多く寄せられた。

■「支部社協や各ボランティア団体などのまとめ役」「学習機会の提供」「情報発信」などを期待する声も多い。

●社協のPRについて

・認知度が低い。／・もう少し積極的なPR。／・社会福祉協議会の目的が市民にはよく理解されていないと思う。公共性の高いところから公的機関と勘違いする人もいる。地域住民と協力しながら地域福祉の向上を図っていくことをもっと周知する必要があると思う。／・社会福祉協議会そのものを知らない方がまだまだいるので、もう少しアピールしてもらえれば賛助会員にも参加してもらえるのではないかなと思う。／・普段から関わりのない人にとって、「社協」は何をすることかわかりにくいと思う。難しいと思うが、もっと身近な存在になって欲しい。／・もっと活動の内容が浸透できるように宣伝して欲しい。／・社会福祉協議会の活動がみえにくいので、具体的活動がみえる工夫をして欲しい。／・支部社協のPRの充実を具体的に考えて欲しい。／・存在が見えない。活発な事業展開を望む。／・他人の手助けを借りたい時、どこに相談したらよいのか市民に浸透していないのではないかな。権利擁護事業等のアピールが足りないのではないかなと思う。規則だからと言って頼んだことをやらしてもらえなかったという不満の声をよく聞く。事前の説明や事後のフォローをしっかりとやるべきと考える。もしくはサービスに関しての苦情処理部門を周知させる。

●社協の経営について

・賛助会費について、現在未開発、非会員となっている大企業、大店舗(特にニュータウン地区)について社協として積極的に取り組み、開発するPR活動をして欲しい。／・資金を有効に使うために、年度初めには各団体、グループの長と会計には具体的に資金の使い方をよく説明して欲しい(素人なので)。余ったら返せというだけでは何も仕事ができない。／・賛助会費の使い方。／・完全独立採算制の組織であるべきです。／・経営のプロの講演を聴くと将来のあり方が見えてくると思う。

●社協の運営について(人材の充実、営業時間の拡充など)

・社協として十分な活動が出来る人材、人員が必要。／・若手の人材育成。／・自分自身が人にお世話になる立場。若い人がどんどんリーダーになり活動してくれると良い。／・無理だと思うが、職員(パートでもよい)を増やし、地域活動をバックアップすることに力を注いで欲しい。／・市役所の福祉課と同じで、月曜日を休みにして欲しい。／・理事と高齢者を入れても活動はフリーにして下さい。

●活動場所の提供、確保

・各地域に1つ飲食の出来る(アルコールを含む)広い場所を提供して欲しい。／・ニーズが増えてくると思うので、小林地区、千葉ニュータウン地区、西の原地区といった支部(小さな事務所)みたいなところがあるといいと思う。／・もう少し障がい者とのふれあいを増やして欲しい。／・住民と直接関わる人材をもっと多くして、支援を求めている高齢者や子育てで悩んでいる家庭の発掘をお願いしたい。／・公民館、集会場の使用。

●活動活性化に向けて

- ・各グループの発表の場がもっとあるといいと思う。／・ボランティア同士のパイプ役をやって欲しい。／・気軽に入れるような雰囲気であるとよい。／・地域間の交流の先頭に立つ。／・まとめ役としての活動を。

●新たなサービスの視点

- ・介護する人(高齢者・身障者等)へのサポート。／・障がい者にもっと働く場所を与えて欲しい。／・福祉施設で出張の傾聴ボランティアがあればよいと思う。／・長期間の男性料理教室を開いて欲しい。／・不要品の回収など、積極的に行って欲しい。／・ボランティアを受ける側と行う側との懇談会を密にしてはどうか。／・趣味の会で交流を深める。

●学習機会

- ・近隣の情報を知り、勉強する場を増やして欲しい。／・ボランティア技能、技術の効用に向けた種々の講習会などの開催を望みます。

●情報発信

- ・ボランティアを受けられる方々がどんな事を望んでおられるのか具体的に知らせてほしい。／・広く情報収集をしてほしい。アンケート等に答えられない(情報を知らない)人にも今後知る手立てを考えて。いろいろな活動の顔触れがあまり変わらないのが残念。／・行事を早めに知りたい。終わってしまったからでは遅すぎる。／・各地域の活動している団体をピックアップ。／・福祉施設のリストアップとそこでの要望事項等が知りたい。(ボランティアグループに教えて欲しい)／・障がい児、障がい者に対する理解を広める講演会等をやって欲しい。特に知的、精神障がいに対してやって欲しい。

●社会全体に対して

- ・人々が安全できる世界にして欲しい。／・高齢化社会への対応。皆、年をとります。若い時は実感しません。／・福祉関係というとなんとなく狭い範囲のボランティアのイメージがあるが、地域のすべてのさまざまなボランティア活動を把握して欲しい。

●その他

- ・見えないところでのご苦勞、活動が多いと思います。いつもご苦勞様です。／・いつも感謝しています。／・職員の皆さんが明るく親切に対応してくれて感謝している。／・葉書、電話連絡があるので感謝している。

いんざい愛プラン

(印西市地域福祉活動計画)

平成19年5月

社会福祉法人 印西市社会福祉協議会